This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problems Mailbox.

Catalysts, m thod of preparing these catalysts, and polym rization processes wherein these catalysts are used.

Patent Number:

₹ EP0277003

Publication

date:

1988-08-03

Inventor(s):

TURNER HOWARD WILLIAM; HLATKY GREGORY GEORGE

Applicant(s)::

EXXON CHEMICAL PATENTS INC (US)

Requested

Patent:

₩O8805792

Application

Number:

EP19880300698 19880127

Priority Number

IPC

US19870011471 19870130; US19870133052 19871221

(s):

Classification:

C07F17/00 : C08F4/64 : C08F4/76 : C08F10/00

EC

Classification:

C08F10/00

Equivalents:

AU1294588, AU610863, BR8805025, CA1338687, DE3855727D, ES2095273T, 🐔 FI101478B,

FI884486, HU52791, IL85098, JP1501950T, JP2880176B2, PL270366, PL276385, 🕺 PT86671,

RU2074770, YU16188, YU178789

Abstract

A catalyst is prepared by combining a bis(cyclopentadienyl)zirconium compound which may be represented by one of the following general formulae: (A-Cp)MX1X2 (A-Cp)MX1X2 (A-Cp)ML; and (Cp*)(CpR)MX1 wherein: M is a metal selected from the Group consisting of titanium (Ti), zirconium (Zr) and hafnium (Hf); (A-Cp) is either (Cp) (Cp*) or Cp-A'-Cp* and Cp and Cp* are the same or different substituted or unsubstituted cyclopentadienyl radicals; A' is a covalent bridging group containing a Group IV-A element; L is an olefin, diolefin or aryne ligand; X1 and X2 are, independently, selected from the Group consisting of hydride radicals, hydrocarbyl radicals, substituted-hydrocarbyl radicals, organo-metalloid radicals and the like; X'1 and X'2 are joined and bound to the metal atom to form a metallacycle, in which the metal, X'1 and X'2 form a hydrocarbocyclic ring having from about 3 to about 20 carbon atoms; and R is a substituent on one of the cyclopentadienyl radicals which is also bound to the metal atom, with a second compound comprising a cation capable of donating a proton and a bulky, labile anion comprising a plurality of boron atoms capable of stabilizing the zirconium cation formally having a coordination number of 3 and a valence of +4 which is formed as a result of the combination, said second compound having one of the following general formulae: [L'-H][(CX)a(BX')mX"b] Wherein: L'-H is either H<+>, ammonium or a substituted-ammonium radical having up to 3 hydrogen atoms replaced with a hydrocarbyl or substituted-hydrocarbyl radical, a phosphonium or substituted-phosphonium radical having up to 3 hydrogen atoms replaced with a hydrocarbyl or substituted-hydrocarbyl radical and the like; B and C are, respectively, boron and carbon; X, X' and X" are radicals selected, independently, from the Group consisting of hydride radicals, halide radicals, hydrocarbyl or substituted-hydrocarbyl radicals, organo-metalloid radicals and the like; a and b are integers >/= 0; c is an integer >/= 1; a + B + c = an even-numbered integer from 2 to about 8, and m is an integer ranging from 5 to about 22. [L'-H][[(CX3)a'(BX4)m'(X5)b']]2M] Wherein: L'-H is either H<+>, ammonium or a substituted-ammonium radical having up to 3 hydrogen atoms replaced with a hydrocarbyl or substitutedhydrocarbyl radical, a phosphonium or substituted-phosphonium radical having up to 3 hydrogen atoms replaced with a hydrocarbyl or substituted-hydrocarbyl radical and the like; B, C, M and H are, respectively, boron, carbon, a transition metal and hydrogen; X3, X4 and X5 are radicals selected, independently, from the Group consisting of hydride radicals, halide radicals, hydrocarbyl or substituted-hydrocarbyl radicals, organo-metalloid radicals and the like; a' and b' are the same or a different integer >/= 0; c' is an integer >/= 2; a' + b' + c' = an even-numbered integer from 4 to about 8; m' is an integer from 6 to about 12; n is an integer such that 2c'- n = d' and d is an integer >/= 1. Many of the catalysts thus formed are stable and isolable and may be recovered and stored. The catalysts may be preformed and then used to polymerize olefins or the catalysts may be formed in situ during polymerization by adding the separate components to the polymerization reaction. The catalysts will be formed when the two components are combined at a temperature within the range from about -100 DEG C to about 300 DEG C. The catalysts thus prepared afford better control of polymer molecular weight and are not subject to equilibrium reversal. The catalysts thus produced are also less pyrophoric than the more conventional Ziegler-Natta olefin polymerization catalysts.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

19日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公表

⑫公表特許公報(A)

平1-501950

例公表 平成1年(1989)7月6日

@Int. Cl.⁴ C 08 F 10/00 識別記号 MFG

庁内整理番号 8319-4 J

審 查 請 求 未請求 予備審查請求 未請求

部門(区分) 3(3)

(全17頁)

❷発明の名称

触媒、これらの触媒の製法およびこれらの触媒を使用する重合プロセス

題 昭63-501758 **②特**

8929出 頤 昭63(1988) 1月27日 函翻訳文提出日 昭63(1988)9月22日

國国際出願 PCT/US88/00222 @国際公開番号 WO88/05792

囫園際公開日 昭63(1988)8月11日

優先権主張

@1987年1月30日@米国(US)@011,471

@発 明 看

ターナー、ハワード・ウイリア

アメリカ合衆国77598テキサス州ウエブスター、エルダー・グレン

@発 明 者

ラトキー、グリゴリー・ジョー

アメリカ合衆国77062テキサス州ヒユーストン、スペース・センタ

ー・ブールバード 15900、エヌー2

ースト・リンデン・アベニュー 1900

(1)出 庭 人 エクソン・ケミカル・パテン

アメリカ合衆国07036-0710-ユー・ジャージー州 リンデン、イ

ツ・インク

弁理士 山崎 行造 外3名 @代 理 人

創指 定 国

AU, BR, DK, FI, HU, JP, KR, NO, SU

糸棒(内容に変更なし)

特許請求の範囲

- 1 , (a) 適した徐雄または希釈荊中で、プロトンと反応 できる最低一つの置換益を含むピス(シクロベンタジェ ニル)金属化合物から成り、前記金属がチタニウム、ジ ルコニウムおよびハフニウムから成る群から選択される 最低一つの第一化合物および、プロトンを与えることが できるカチオンと、世数の別素原子を含む、かさ高で不 安定で、二化合物間の反応の結果生成する金属カチオン を安定化することができるアニオンとから成る最低一つ の第二化合物を一緒にし、
- (b) 第二化合物のカチオンによって提供されるプロ トンが前記金属化合物に含まれる前記置換基と反応する のに十分な時間、及防(a) で接触を保持し、
- (c) 段階(b) からの直接生成物として、または1つ またはそれ以上の前記直接生成物の分解度物として、括 性触媒を回収する。

諸政階から成る、無謀の製法。

2. 前記ピス(シクロペンタジエニル)金属化合物が次 の一般式によってあらわされ:

(A-C_p) MX1 X2 (A-C) MX' , X' 2 (A-C_) MLちとび/または (C TIC E) MX;

ここで:

M はチタニカム(Ti)、ジルコニカム(Zr)およびハフニ ゥム(RI)から成る群から選択される金属;(A・C。) は (Cp)(Cp[‡]) またはCp - A' - Cp[‡]で、Cp お よびC。まは同じかまたは異なる置換または未置換のシュ クロベンタジェニル器で、任意に2箇の独立的に関係 された、または異換されない基であり; A ′ は第 N -A 族の元素を含む共有結合架構基であり;しはオレフィ ン、ジオレフィンまたはアリインリガンドである; Xi およびXi はハイドライド基、ヒドロカルビル基、 置換ヒドロカルビル基、任意に2位の低級アルキル 回換益または2回のハイドライド、有機メタロイド 基等から成る群から独立的に選択され: X' 」および X′。は金属原子に結合して金属サイクルを形成し、 ここでは金属、X′ 1 およびX′ 2 は約3乃至約20の 設業原子を含む炭化水素環を形成し; R は、やはり金 民原子に結合したシクロペンタジュニル基の一つの上 にある躍蟲基である

請求項目に配載の方法。

3. 前記第二化合物が、次の一般式 (r. -H) ((CX) (BX') X' ") .

- - T :

ルまたは囚执ヒドロカルビル益で監視される3首まで の水素原子をもつ望損アンモニウム基、ポスフォニウ ム、またはヒドロカルビルまたは屋換ヒドロカルビル

特表平1-501950(2)

低によって置換される3間までの水素原子をもつ医換ホスフォニウム基等であり; B および C はそれぞれ朝業および皮素であり; X、 X * および X * はハイドライド基、ハリド基、ヒドロカルビル基、有機メタロイド基等から成るほから独立的に選ばれる基であり; a および b は ≥ 0 の整数で; c は ≥ 1 の整数; a + b + c - 2 から約3までの供数の整数; m は5 ~ 約22の範囲の整数である;

および/または

 $(r_1 - B) (U(c X^{\frac{1}{2}})^{\frac{d_1}{d_1}} (BX^{\frac{1}{2}})^{\frac{d_1}{d_1}} (X^{\frac{1}{2}})^{\frac{d_1}{d_1}})^{\frac{1}{2}} (x^{\frac{1}{2}})^{\frac{d_1}{d_1}} 1^{\frac{1}{2}} W_{0})^{\frac{1}{2}}$

2 2 T :

ジエニル) ジルコニウム ジメチル、および [1.8-ピス (トリメチルシリル) シクロペンタジエニル] ジルコニ ウム ジメチルから成る群から選択される額次項 6 に記 載の方法。

7. 前紀第二化合物が次の一般式によってあらわまれ: (L'-H) ((CH) _w (BH) _w H_w) ^{ex-}

ここで:

し、 - 月は日**、 アンモニウムまたは、 3 個までの水 然が と ドロカル ピルまた は 医 後 と ドロカル ピル 基に こって 医 後 された に 医 に 三屋 独 された 区 換 アンモニウム ま 、 ホスフォニウムを た は 3 個 までの 水 紫が と ドロカル ピルま に は 軍 後 と ドロカルビル 甚 に よって 服 後 された 区 換 ホスフォニウム 基 等で あり; B、 C、 H は それ ぞれ 知 素 、 炎素 および 水素で; a y は 0 から 2 までの 整数 ; c y は 0 から 3 ま での 整数 ; a y + b y + c y - 4; そ し て m x は 9 から 18までの 整数 で ある

請求項 1 から請求項 4 までのいずれかに記載の方法。
8. 前記知二化合物がトリ (n-ブチル) アンモニウム 1.
8-ジカルバウンデカボレートおよびトリ (n-ブチル) アンモニウムトリデカハイドライド-1- カルバウンデカボレートから成る耳から選択され、この場合第一化合物が
好ましくはピス (ペンタメチルシクロペンタジエニル)
ジルコニウム ジメチルであり、かつ/または L′ー 日
か日*、より 好ま しくは 1.8-ジカルバウンデカボラン

の中の一つによってあらわされる請求項!または請求項 2 に記載の方法。

4. 段階(a) の接触が約-100℃~約 300℃までの範囲の 温度で、好ましくは 0 ~ 45.000psig (0 ~ 28471 ㎏/cd) の圧力下で行われる先行請求項のいずれかに記載の方法。 5. 毎二化合物が一般式

(L' -H] [(CH) at (BH) br) ct-

によってあらわされ

: : 7 :

L'ーHは日*、アンモニウムまたは、ヒドロカルビルまたは医換ヒドロカルビル茲で置換される 3 知までの水素原子をもつ任意に三確換された医換アンモニウム茲、ホスフォニウムまたは、ヒドロカルビルまたは 置後ヒドロカルビル茲で置換される 3 聞までの水燥原子をもつ医換ホスフォニウム茲等であり; B、Cおよび日はそれぞれ研索、炭素および水楽で; a x は 0 か 1 で; c x は 2 か 1 であり; a x - c x ~ 2; b x は 10から12までの整数である。

先行請求項のいずれかに記載の方法。

6. 前記 第二 化合物が ピス [トリ (n-ブチル) アンモニウム] ドデカボレート および トリ (n-ブチル) アンモニウム 1-カルバウンデカまたは 1-カルバドデカボレートから成る 群から選択され、前記 第一化合物が ピス (ベンタメチルシクロベンタ ジエニル) ジルコニウム ジメチル、(ベンタメチルシクロベンタジエニル) (シクロベンタ

(13)またはオクタデカボラン(22)であり、この場合任意に前記団―化合物がピス(ベンタメチルシクロベンタジエニル)ジルコニウム ジメチルおよびピス(エチルテトラメチルシクロベンタジエニル)ジルコニウム ジメチルから成る群から選択される結求項 7 に記録の方法。

9. 前記第二化合物が次の一般式によってあらわされ: [L'-H] [[[(CH) = (BH) = H_m] ^{cz-}] , MZ^{mz*}] ^{dz-}

ここで:

L・一日は日・、アンモニウムまたは3個までの水素
原子がヒドロカルビルまたは面頂ヒドロカルビル基で
置換された面換アンモニウム基、ホスフォニウム、または3個までの水素原子がヒドロカルビルまたは置換
ヒドロカルビル基によって置換された配換ホスフォニウム基等であり;B、C、日およびM2はそれぞれが
までの軽散: b z は 0 から2までの整散: c z は 2 か 3; m z は 9 から11までの整散: a z + b z + c z
ー 4; n z および d z はそれぞれ 2 と 2、または 3 と

耕求項1万至請求項4のいずれかに記載の方法。

10. 前記第二化合物が N・N-ジメ チ ル ア ニ リ ニ ウ ム ピ ス (ウン デカ ハ イ ド ラ イ ド - 7・8 - ジ カ ル パ ウン デ カ ポ レ ー ト) コ パ ル チ ー ト (国) で あ り 、 か つ / ま た は 前 記 卸 一 化 合物 が 1-ピス (シ ク ロ ペ ン タ ジ エ ニ ル) チ タ ン - 3 - ジ メ チ ル シ ラ シ ク ロ ブ タ ン 、1-ピス (シ ク ロ ペ ン タ ジ エ ニ

特表平1-501950(3)

ル) ジルコン-3- ジメチルシラシクロブタン、および1-ピス (シクロベンタジェニル) ハフナ-3- ジメチルシラ シクロプタン、ピス (シクロペンタジエニル) ジルコニ ウム (2.8 ジメチル-1.8.-ブタジエン) およびピス (シ クロベンタジエニル) ハフニウム (2.3-ジメテル-1.8-* プクジエン)、 (ペンタチメルシクロペンタジエニル) (テトラメチルシクロペンタジエニルメチレン) ジルコ ニウムフェニルおよび(ペンタメチルシクロペンタジェ ニル) (テトラメチルシクロペンタジエニルメチレン) ハフニウムペンジルから成る群から選択され:または第 二化合物が N・N-ジメチルアニリニウム ヒス (7・8-ジカ ルパウンデカポレート) ニッケレート (皿) および N・N・ ジメチルアニリニウム ピス (1.8-ジカルパウンデカボ レート) フェレート (皿) でこの場合好ましくは如一化 合物がピス(ベンタメチルシクロベンタジュニル)ジル コニウム ジメチルである請求項9に記載の方法。 11. 2 乃至約18の改米原子を含むα-オレフィン、ジオ レフィンおよび/またはアセチレン性不飽和化合物を、 単独で、または1種類またはそれ以上のモノマーと組み

(a) 約-100℃から約 300℃までの隔凹内の湿度、約 0 から約45,000ps1g (0 ~ 28471 ㎏/ cd) の範凹内の出力で、オレフィン、ジオレフィンおよび/またはアセチレン性不飽和モノマーを、単独で、または 1 種類かそれ以上のモノマーと組み合わせて適当な担体、格碍またば

循釈制中で、先行請求項のいずれかに記載の方法によって、あらかじめ製造した、或いはその場で製造した触媒と、重合の関接触させ、

- (b) 段階(a) の接触を少くとも上記オレフィンの一部が頂合するのに十分な時間継続し;
 - (c) ポリマー生成物を回収する

段階から成る重合方法。

- 12. 南次項1乃至前求項10のいずれかに記載の方法により製造される触媒。
- 13. 請求項 IIの方法にしたがって製造されるポリオレフィン。
- 14. 次の一般式

(A-C,) MX; B'

によってあらわきれ、

. ここで:Mはチタニウム(TI)、ジルコニウム(Zr)およ ば

ハフニウム (Πt) から成る 呼から選択される 金属で; $(A-C_p)$ は (C_p) (C_p) または C_p-A (C_p) または C_p を C_p は 間 じかまたは 異なる 競換 一または 米 置 換の シクロベンタ ジェニル 基で; A 、は 第 V-A 数元素 を含む 共有結合 製 権 基 で あり; X_1 は ハイドライド 基 、 ヒドロカルビル 基、 有 根 メタロイド 基 等 から成る 呼から 選択され、 B 、 は 次 の 一般 式

BおよびCはそれぞれ明常および炭帝;

合わせて、垂合する方法であって、

X、 X、 および X。 はいイドライド基、ハリド基、ヒドロカルピル基、有限メタロイド基等から成る群から 独立的に選択される基で:

a および b は ≥ 0 の 数数で; c は ≥ 1 の 終数; a + b + c は 2 か ら約 8 までの 偶数の 整数; m は 5 か ら約 22までの 範囲の 整数; および 84 ((((CX₂)₂, (BX₁)₂, (X₁)₃) ^{(**}) 2 M^(*)) ^{6*}

ここで:

B. CおよびMはそれぞれ朝常、数素および通移金属:
X: X 4 および X; はハイドライド基、ハリド基、
ヒドロカルビル基、有機メタロイド 基等から成る群か
ら独立的に選択され; A′ および b′ は間じか異なる
≥ 0 の整数: C′ は≥ 2 の整数: a′ + b′ + c′ は
4 から約 8 までの偶数の整数: m′ は 6 から約 12まで
の整数: n は 2 c′ .- n = d となるような整数: d は
≥ 1 の整数である:

のうちの一つの式によってあらわされる適合性非配位 性アニオンである

化合物を含む物質組成物。

15. (A - C_p) がピス(ペルアルキル置換 -シクロペンタジエニル)で、Xがアルキル基で;B゚が(ドデカハイドリド-7.8- ジカルパウンヂカボレート)で、Mがジルコニウムであり、ペルアルキル置換シクロペンタジエニル基の各アルキル基が独立的にC₁ - C₂₀アルキル

張で、アルキル群は C_i - C₂₀ アルキル基で、ベルアルキル関係 基は好ましくはベンタメチルまたはエチルテトラメチルで、アルキル基は好ましくはメチル基である 請求 項 14に 記載の物質 都 広物。

浄香(内容に安更なし)

明 和 書

触媒、これらの触媒の製法およびこれらの触媒を使用する場合プロセス

これは1987年1月30日提出の米国特許出駐卸011.47! 号の一部統統出願である。

発明の背景

本発明は、触媒として有用な物質組成物、これら触線の設法、これら物質組成物を触媒として使用するプロセス、およびこれら触媒で製造される蛋合生成物に関するものである。より詳細に述べるならば、本発明は、触媒組成物、この触媒組成物の製法、これら触媒組成物を用いてオレフィン、ジオレフィンおよび/またはアセチレン性不飽和モノマーを銀合する方法、およびこれらの触媒組成物で製造される蛋合生成物に関するものである。

オレフィン質合における可能性チーグラーーナッタ触ばの使用は先行技術ではもちろんよく知られている。 概してこれらの可溶性系は茶IV-B族金属化合物およびを含む。これらの触媒の亜種は、第IV-B族金属、特にチクニウムアルキル助触媒とから成る亜種である。 可溶性チークムアルキル助触媒とから成る亜種である。 可溶性チーグラーーナック型オレフィンの合触媒のこの亜種においる活性触媒種の変原の構造に関しては推測の域を出ないが、 振して活性触媒類は、不安定な安定アニオンの分解でオレフィンをアルキル化するイオンまたはその分解

ような活性無媒類を形成する配位化学を数示すたは示唆 している一方、これらの独文のすべては、ルュイス酸を 含む助触媒を使用して活性イオン性触媒種を形成または 安定化することを教示している。活性触媒は明らかに二 つの中性成分(メタロセンおよびアルミニウムアルキル) のルッイス酸ールッイス塩基反応によって形成され、中 性の、見たところ不活性のアダクトと、イオン対ー多分 活件時報ーとの間を単衡させる。この単衡の結果として、 存在して活性カチオン触媒類を安定させているにちがい ないアニオンに対して競争がある。もちろんこの平衡は 可逆的であり、このような逆転は触媒を不活性化するで あろう。そのと、今までに考えられた触媒系は、系に塩 基性不純物があると毒性作用にさらされる。さらに、可 接性チーグラーーナック触媒系に使用するためにこれま で考えられたルュイス酸の一全てと言わないまでも一多 くは連鎖移動剤であり、その結果、生成ポリマーの分子 量および生成物分子量分布の効果的コントロールを阻止 する。その上、これまで考えられた助触媒の全てと言わ ないまでも大部分は高度に自然発火性であり、その結果 その使用はいくらか危険である。

上記の触録系は、使用する第N-B族金属がジルコニウムまたはハフニウムである場合は限して、特に活性ではない。しかじながら最近、ピス(シクロペンタジエニル)パフニウムおよびピス(シクロペンタジエニル)ジルコニウム化合物をアルモキサンと共に用いるとき、活性

特表平1-501950(4)

血物であるという考え方が容認されているようにみえ る。この独倫はプレスロウ(Breslov) およびニュウバ ーグ(Newburg) 、およびロング(Long)およびプレスロウ によって最初に提唱され、1.Am.Chem.Soc.,1959.81巻、 81-88 ページおよびJ.As.Ches.Soc..1980.82色、1958-1957ページの彼等の論文中に記されている。彼等の論文 に記されているように、種々の研究は、その話性触媒種 はチタニウムアルキル路化合物であるか、または、チタ ニウム化合物すなわちピス(シクロペンタジエニル) チタニウムジハリド、およびアルミニウムアルキル が触媒または触媒解駆体として用いられるときぞれら (チタニウムアルキル館化合物) から練過される舞蹈 であることを示唆した。チタニウム化合物が用いられ るときイオンが存在する-すべては平衡状態で~こと は、ディアチョヴスキー(Dyachkovskil)、VysoKomol. Soyed..1985.7色114-115 ページおよびディアチョヴ スキー、シロヴァ(Shilova) およびシロヴ(Shilov)、J. Polya.Sci..Part C.1967.2888-2889によっても示唆され た。チタニウム化合物を用いる場合、活性触線性がカチ オン鉛化合物であることは、その後アイシュ(Eisch) 答 (J. Am. Chem. Soc. 1985.107 巻 .7219-7221ページ) も示唆 した。

先行は文は、活性触媒種がイオン対、特に企画成分が カチオンまたはその分解産物として存在しているイオン 対であることを数示または示唆し、これらの文献はこの

テーグラー・ナック粒媒が形成されることが発見された。 よく知られているように、これらの新はいくつかの明ら かな役所をもっている。それらの役所としては、上記の ピス(シクロベンタジエニル)チタニウム地群より苦し く再い触媒活性および従来のチーグラー・ナッタ触媒に よる場合に比べてより狭い分子量分布をもったポリマー の製造である。しかしながらこれらの系は、塩基性不純 物が存在するときには相要らず尋性作用を受け、効率的 に掛修するためには、切ましくない終過剰のアルチキサ ンを必要とする。その上ハフニウム含有系は、少くとも 水モ重合のために用いる場合は、ジルコニウム含有系は ど活性ではない。このことはギアネッチ(Glangetti) 、 ニコレッチ(Nicoletti) およびマソッチー(Mazzacchi) . J.Polym.Sci.Polym.Chem.1985.28地 2117-2183ページ、 によって示唆された。彼等は、ピス(シクロペンタジェ ニル)ハフニウム化合物のエチレン量合速皮が、類似の ピス(シクロペンタジエニル)ジルコニウム化合物のモ れよりも5~10倍もおそい一方、生成したポリエチレン の分子量には、二触媒間でほとんど差がなかった、と主 孤した。

これまでに考えられた配位放機系のいくつかの欠点に照らして、 (1) 分子量および分子量分布をより良くコントロールでき: (2) 活性化平衡にさらされず; (8) 不都合な動機群の使用を含まない、改良された配位系の必要性が明白であると考えられる。

発明の概要

太奈明のイオン性験は、およびこれと共に提供される 改良されたオレフィン、ジオレフィンおよび/またはア セチレン性不能和モノマー重合プロセスを用いれば、先 行技術のイオン性オレフィン質合触媒の前述の、および その他の欠点は避けられるか、または少くとも減少する ことが発見された。そこで本発明の目的は、オレフィン、 ジオレフィンおよびアセチレン性不飽和モノマーの重合 に有用な改良されたイオン触媒系を提供することである。 本発明の他の目的はこのような改良触媒の製法を提供す ることである。本発明のもう一つの目的はこのような改 良触媒を狙いる改良値合プロセスを提供することである。 本発明の別の目的は、イオン平衡逆転を受けない改良さ れた触媒を提供することである。本発明のまた別の目的 は、生成物ポリマーの分子質および分子量分布をより意 くコントロールすることのできる改良触媒を提供するこ とである。本発明のもう一つの目的は、使用時に発火の 危険性がより少ない改良触媒を提供することである。本 発明のさらにもう一つの目的は、比較的狭い分子量分布 をもち、或る種の金属不能物を含まない、これら改良腫 雄を用いて製造される距合生成物を提供することである。 本発明の上記のおよびその他の目的および利点は、この 後に示される説明およびここに含まれる裏施鍵から明ら かになる。

本発明にしたがうと、前述のおよびその他の目的およ

しかしながらそのアニオンは、エチレンで監偽されるほど十分には不安定でない。

発明の詳細な説明

前述のように、本発明は触媒、そのような触媒の製法、 そのような触媒の使用法およびそのような触媒で製造さ れる重合生成物に関するものである。その触媒はローオ レフィン、ジオレフィンおよびアセチレン性不能和モノ マーの重合において特に有用である。改良触媒は、形式 上配位数3および原子価+4を有するカチオンを形成する ことができる元素周期表類 IV - B族金属のピス(シクロペ ンタジェニル)誘導体である最低一つの第一化合物と、 プロトンを供与することができるカチオン並びに複数の 如素原子を含む適合性の非配位アニオンであって、かさ が大きく、不安定で、第1V-B級金属カチオンまたはその 分解遺物の、αーオレフィン、ジオレフィンおよび/ま たはアセチレン性不数和モノマーを誓合する能力を阻害 することなく第 IV-B放金属カチオンを安定し得るアニオ ンから成る最低一つの第二化合物とを結合することによ ってつくられる。

本明細管中の元常周期表に関するすべての参照はCRC プレス社(CRC Press.inc.)が1984年に出版し、著作権を とった元素周期表を参照している。またそのような元素 周期表の族(一つまたは複数)のあらゆる参照は、この 元素周期表にあらわされている族(一つまたは複数)を 参照している。 び長所は最低二つの成分を組み合わせてつくられる触媒 で、およびそれを用いることによって達成される。この 成分の中間一は、ルュイスーまたはプレンステッド数と 粘合し、それによって類 IV -B族金属カチオンを与える最 低一つのリガンドを含む可能性、ピス(シクロベンタ ジエニル) - 課格 - 第1V - R放心臓化会物であり、揺この 化合物は、プロトンを与え上記第TV-B族金属化合物の 上記りガンドと非可逆的に反応して遊離の中性副産物 を避除するカチオンと、複数の硼素原子を含む適合性 (Compatible)の非配位アニオンとから成る。この適合性 非配位アニオンは安定で、かき高で、かっ不安定である。 可益性第 TV-B族金属化合物は、上記リガンドがそれから 遊離するとき、正式には配位時38とび原子66+4を有す るカチオンを形成することができなければならない。毎 二の化合物のアニオンは、第TV +R族会区カチオンまたは その分解磨物の触媒として機能する能力を阻害すること なく類 IV-B族金属カチオン錯化合物を安定することがで きなければならないし、蛋合中にオレフィン、ジオレフ ィンまたはアセチレン性不飽和モノマーによる関換が可 能なほど不安定でなければならない。たとえばポックマ ン(Bockwann)およびウィルソン(Vilson)は、ピス(シク ロベンタジエニル) ーチタニカムジメチルはテトラフル オロ朝設と反応してピス(シクロペンタジエニル)チタ ニウムメチルテトラフルオロ朝馥を形成する。と親告し た (J. Chem. Soc. Chem. Comm., 1988, 1810-1611 ページ) .

本明細者に用いられている用語で連合性非配位性アニオンでは、上記カテオンに配位しないかまたは上記カチオンにごく新く配位し、中性ルニイス塩素によって最近されるほど十分不安定のままであるアニオンを登録が入れて安定アニオンとしてはたらくときに、アニオン性歴決基またはその断片を上記カチオンに抄すことにおいて中性の四配位メタロセンおよび中性研禁解歴物を形成することのないアニオンを特に指す。通合性アニオンとは、最初に形成された機化合物が分解するとき、中性までは分類しないアニオンである。

本見朝の改良触媒の第一化合物として有用な第1V-8歳 金属化合物、特にチタニウム・、ジルコニウム - および ハフニウム化合物は、チタニワム、ジルコニウムおよび ハフニウムのピス (シクロペンタジエニル) 誘導体であ る。ほして有用なチタニウム - 、ジルコニウム・および ハフニウム化合物は、次の一般式によってあらわされる:

- I. (A-C_p) MX₁ X₂
- 2. (A-C,) MX' , X' ;
- 1. (A-C_p) ML
- 4. (C,)(C, R) MX,

ここでM はチタニウム (T1)、ジルコニウム (Z1) およびハフニウム (HI) から成る 群から 選択される 全属であり; $(A-C_p)$ は $(C_p)(C_p^*)$ または $C_p-A'-C_p^*$ で、 C_n および C_n^* は同じかまたは A なる 最換 - または

特表平1-501950(6)

未買換シクロペンタジェニル基で、ここで A′ は 類 Ⅳ-A 波元素を含む共有結合準格益(bridging group)でありし はオレフィン、ジオレフィンまたはアリイン(aryne) リ ガンドである ; Х ; およびХ 2 はハイドライド茲、1 ~ 約20の敗棄原子を有するヒドロカルピル基、1倍または それ以上の水素原子がハロゲン原子によって留換され 1~約20の決索原子を存する置換ヒドロカルビル益、 第 IV - A 版 元 素 を 含 む 有 機 メ タ ロ イ ド 基 で あ っ て 有 機 メ タロイドの有機部分に含まれるヒドロカルビン国換 益の各々が独立的に1~約20億の炭素原子を含む有機 メタロイド益等から成る罪から独立的に選択され; X′ 1 および X′ 2 は金属原子に結合して金属サイクル (metallacycle) を形成し、そこでは金属、X' i およ び X′ 2 は約3~約20の炭素原子を含む炭化水素環を形 成する:Rは、これもまた金属原子に結合しているシク ロペンタジエニル基の一つに1~約20の炭紫原子を存す る関換基、より好ましくはヒドロカルピル置換基である。 シクロベンタジェニル基の各換業原子は独立的に、罹 掛されでいないかもしくは、ヒドロカルビル基、1日ま たはそれ以上の水素原子がハロゲン原子によって関換さ れた個換ヒドロカルビル基、メクロイドが元梁周期数の 策Ⅳ-A股から選択されるヒドロカルビル盟換メタロイド 芸、ハロゲン茲等から成る群から選択される同一のまた は異なる基である。シクロペンタジュニル基の最低1位 の水素原子が屋頂されるのに適当なヒドロカルビルおよ

本発明の改良触媒の翻語に用いられる ピス (シクロペンタジェニル) ジルコニウム 化合物の 例 証 的だが 調 限 的でない 例 は、ジ ヒ ドロ カル ピ ル 置 彼 ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジメ チル、 ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジエチル、 ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジブロ ピル、 ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジブロ ピル、 ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジフェニル、ピス (シクロペンタ ジェニル) ジルコニウム ジネオペ

ンチル、ピス (シクロペンタジエニル) ジルコニウム ジ (ョートリル) 、ピス (シクロペンタジエニル) ジルコ ニウム ジ (p-トリル) 等;(モノヒドロカルビルー量 換シクロベンタジエニル〉ジルコニウム化合物、たとえ は (メチルシクロペンタジエニル) (シクロペンタジエ ニル) およびピス (メチルシクロペンタジエニル) ジル コニウム ジメチル、(エチルシクロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (エチルシクロベ ンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(プロピルシ クロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) および ピス (プロピルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(α-ブチルシクロペンタジエニル)(シクロ ペンタジエニル) およびピス (ローブチルシクロペンタジ エニル) ジルコニウム ジメテル、(t-ブチルシクロペ ンタジェニル) (シクロベンタジェニル)およびピス (1-ブチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメ チル、(シクロヘキシルメチルシクロペンタジエニル) (シクロペンタジエニル) およびピス (シクロヘキシル メチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、 (ベンジルシクロベンタジエニル)・(シクロベンタジエ ニル) およびピス (ペンジルシクロペンタジエニル) グ ルコニゥム ジメチル、(ジフエニルメチルシクロベン タヴェニル) (シクロペンタジエニル) およびピス (ジ フェニルメチルシクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(メチルシクロペンタジエニル)(シクロペ

ンタジエニル) およびビス (メチルシクロペンタジエニ ル)ジルコニウム二水業化物、(エチルシクロペンタジ エニル) (シクロペンタジエニル)およびピス(エチル シクロペンタジェニル)ジルコニウム二水素化物、(プ ロビルシクロベンタジェニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (プロピルシクロペンタジエニル) ジルコ ニカム二水米化物、(ロープチルシクロペンタジエニル) (シクロペンタジエニル) およびピス (n-ブチルシクロ ベンタジエニル)ジルコニウム二水素化物、(1-プチル シクロペンタジエニル) (シクロペンタジエニル)およ びヒス(t-ブチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム 二水な化物、(シクロヘキシルメチルシクロペンタジエ ニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (シクロヘ キシルメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム二水 業化物、 (ベンジルシクロベンタジエニル) (シクロベ ンタジエニル) およびピス (ペンジルシクロペンタジエ ニル)ジルコニウムニ水素化物、(ジフェニルメチルシ クロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル)および ピス (ジフェニルメチルシクロペン名ジエニル) ジルコ ニウム二水素化物等;(ポリヒドロカルピル異換~シク ロペンタジエニル)ジルコニウム化合物、たとえば(ジ メチルシクロペンタジエニル) (シクロペンクジエニル) およびヒス (ジメチルシクロペンタジエニル) ジルコニ ウム ジメチル、(トリメチルシクロペンタジエニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (トリメチルシク

特表平1-501950(7)

ロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(テトラ メチルシクロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (テトラメチルシクロベンタグエニル) ジル コニウム ジメチル、(ベルメチルシグロベンタジエニ ル) (シクロペンタジエニル)およびピス(ペルメチル シクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、 (エ チルテトラメチルシクロペンタジエニル) (シクロペン: タジエニル) およびピス (エチルテトラメチルシクロベ ンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(インデニル) (シクロペンタジェニル) およびピス (インデニル) ジ ルコニウム ジメチル、(ジメチルシクロベンタジエニ ル) (シクロペンタジエニル)およびピス(ジメチルシ クロペンタジエニル)ジルコニウム二水素化物、(トリ メチルシクロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) およびピス (トリメチルシクロペンタジエニル) ジルコ ニウム二水楽化物、(テトラメチルシクロペンタジエニ ル)(シクロベンタジエニル)およびピス(テトラメチ ルシクロベンタジェニル)ジルコニウムニ水素化物、 (ベルメチルシクロベンタジエニル) (シクロベンタジ エニル) およびピス (ベルメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム二水業化物、(エチルテトラメチルシクロ ペンタジェニル) (シクロペンタジェニル) およびピス (エチルテトラメチルシクロペンタジエニル) ジルコニ ウム二水葉化物、(インデニル)(シクロベンタジエニ ル)およびピス(インデニル)ジルコニウム二水素化物

符;(金属ヒドロカルビルー匠換シクロベンタジエニル) ジルコニウム化合物、たとえば(トリメチルシリルシク ロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) およびピ ス(トリメチルシリルシクロペンタジエニル) ジルコニ ウム ジメチル、(トリメチルゲルミルシクロベンタジ ュニル)(シクロペンタジエニル)およびピス(トリメ チルゲルミルシクロペンタジエニル) ジルコニウムージ メチル、(トリメチル銀シクロペンタジエニル) (シク ロベンクジエニル)およびピス (トリメチル銀シクロベ ンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、(トリメチル 鉛シクロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル)お よびピス (トリメチル鉛シクロペンタジェニル) ジルコ ニウム ジメチル、(トリメチルシリルシクロペンタジ エニル) (シクロペンタジエニル) およびピス (トリメ チルシリルシクロベンタジエニル)ジルコニウム三水素 化物、(トリメチルゲルミルシクロペンタジエニル) (シクロペンタジェニル)およびピス(トリメチルゲル ミルシクロペンタジエニル)ジルコニウム二水素化物、 (トリメチル銀シクロペンタジエニル) (シクロペンタ ジエニル) およびピス (トリメチル組シクロペンタジエ ニル)ジルコニウム二水素化物、(トリメチル鉛シクロ ベンタジエニル (シクロペンタジエニル) およびピス (トリメチル鉛シクロペンタジエニル) ジルコニウムニ 水紫化物等;(ハロゲン嵌換ーシクロペンタジェニル) ジルコニウム化合物、たとえば(トリフルオロメチルシ

クロベンタジエニル) (シクロベンタジエニル) および ピス (トリフルオロメチルシクロペンタジエニル) ジル コニウム ジメチル、(トリフルオロメチルシクロペン タジエニル) (シクロペンタジエニル)およびピス(ト リフルオロメチルシクロペンタジエニル)ジルコニウム 二水素化物等;珪素関換ービス(シクロペンタジュニル) ジルコニウム化合物、たとえばピス(シクロペンタジエ ニル)(トリメチルシリル)(メチル)ジルコニウム、 ピス (シクロペンタジエニル) (トリフェニルシリル) (メチル) ジルコニウム、ピス (シクロベンタジエニル) [トリス (ジメチルシリル) シリル] (メチル) ジルコ ニウム、ピス (シクロペンタジエニル) [ピス (メシチ ル) シリル】 (メチル) ジルコニウム、ピス (シクロペ ンタジエニル)(トリメチルシリル)(トリメチルシリ ルメチル) ジルコニウム、ヒス (シクロペンクジエニル) (トリメチルシリル) (ペンジル) 等; (双指ーシクロ ペンタジエニル)ジルコニカム化合物、たとえばメチレ ンービス (シクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメ チル、エチレンーピス (シクロペンタジエニル) ジルコ ニウム ジメチル、ジメチルシリルーピス (シクロベン タジェニル) ジルコニウム ジメチルメチレンーピス (シクロペンタジェニル) ジルコニウムニ水素化物、エ チレンーピス (シクロベンタジエニル) ジルコニウムニ 水素化物、ジメチルシリルーピス(シクロペンタジエニ ル)ジルコニウム二水素化物等;ジルコナサイクル、た

とえばピス(ペンタメチルシクロペンタジエニル)ジル コナ シクロブタン、ピス(ペンタメチルシクロペンタ ジェニル) ジルコナーシクロペンタン、ピス(シクロペ ンタンジエニル)ジルコナインダン等:オレフィン、 ジオレフィンおよびアリイン(aryne) リガンド設後ピス (シクロペンタジエニル) ジルコニウム化合物、たとえ ばピス(シクロペンタジエニル)(1.3-ブクジエン)ジ ルコニウム、ピス(シクロペンタジエニル)(2.8-ジメ チル-1.8- ブクジエン) ジルコニウム、ピス (ペンタメ チルシクロペンタジエニル) (ベンジン) ジルコニウム 毎;(ヒドロカルピル)(ハイドライド)ピス(シク ロペンタジエニル)ジルコニウム化合物、たとえばピス (ペンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム (フュニル) (ハイドライド)、ピス(ペンタメチルシ クロペンタジエニル) ジルコニウム (メチル) (ハイド ライド)等;およびシクロベンタジエニル禁止の置換基 が金属に結合しているピス(シクロペンタジエニル)ジ ルコニウム化合物、たとえば(ペンタメチルシクロペン タジエニル) (テトラメチルシクロベンタジエニルメチ レン)ジルコニウム水業化物、(ペンタメチルシクロペ ンタジエニル) (テトラメチルシクロペンタジエニルメ チレン) ジルコニウム フェニルぎである。

例证的 ピス (シクロベンクジェニル) ハフニウム および ピス (シクロベンタジェニル)チタニウム 化合物の 同様なリストを作ることはできたが、モのリストは、ピス

(シクロベンタジエニル) ジルコニウム化合物に関して示したリストとほとんど同じであるから、そのような別なりストは発金な協っには必要ないと思われる。しかし熟物せる当業者は、上記のい合物は相当する ピス (シクロベンタジエニル) テクニウム化合物は知られていない フェウム化合物は知られていない フェウム化合物は知られていない ストは少なくなるであるう。本発明の触線組成物に有用なその他のピス (シクロベンタジエニル) チタニウム化合物 、並びにその他のピス (シクロベンタジエニル) チタニウム化合物、並びにその他のピス (シクロベンタジエニル) チタニウム化合物、並びにその他のピス (シクロベンタジエニル) ジエニカ)

本発明の触線の製造において第二の成分として有用な化合物は、プロトンを供与することのできるプルステッド酸であるカチオンと、複数の研索原子を含る活性触線的大きく、二成分を組み合わせたとき生成する活性触線の大きく、二成分を組み合わせたとき生成するとからは、オレフィン・、ジオレフィン・およびアセチレン性不飽和蒸算式いはその他の中性ルッイス塩果、たとえばエーテル、ニトリル等によって複換の対象において有用な第二の化合物は、次の一般はのによってあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であってもあらわされるいかなる化合物であるものであるとして

ル基、または1酉以上の水素以子がハロゲン以子によっ て電換された、1~約20箇までの炭素原子を含む盤換と ドロカルビル共によって緊急された環境アンモニウム基、 ホスフォニウム芸、3日までの水素原子が、1~約20日 の炭素原子を含むヒドロカルビル基で、または10以上 の水衆原子がハロゲン原子によって置換された、1~約 20箇の決業原子を含む屋頂ヒドロカルビル基で改換され た湿接ホスフォニウム基等のいづれかである;B、C、 M、Hはそれぞれ、朝森、炭素、連移金属および水業で ある;Xネ、Xェ、Xェはハイドライド基、ハリド基、 1~約20首の炭素原子を有するヒドロカルビル基、1首 以上の水素原子がハロゲン原子によって置換され、1~ 約26年の炭素原子を含む置換ヒドロカルビル基、有職メ タロイドの有機部分の各ヒドロカルピル競換益が 1 ~約 20節の炭素原子を含み、金属が元素周期表の第1V-A族か ら選ばれる有限メタロイド基等から成る群から独立的に 選択される基である; a′および b′は≥ 0 の同じか異 なる監数である; c′ は≥ 2 の監数; a′ + b′ + c′ は4から約8までの鉄数の整数である;m′は5から約 12までの整数; nは2 c′-n=dとなるような整数で、 dは≥1の整数である。

本発明の触線組成物の第二の成分として用いられる第二化合物の例延的な、だが非制限的な例は、アンモニウム地、たとえばアンモニウム!-カルパドデカボレート(carbadodecaborate) (以下に列挙するアンモニウムカ

ここで、L′ーHはH* 、アンモニウムまたは、3切ま での水米原子が1~約20歳の炭米原子を含むヒドロカル ビル基、または10以上の水染原子がハロゲン原子によ って躍換された、1~約20箇までの炭素原子を含む試換 ヒドロカルビル基によって置換された置換アンモニウム カチオン、ホスフォニウム基、3四までの水梁脳子が1 ~約20箇の炭素原子を含むヒドロオルビル基で、または 1 類以上の水素原子がハロゲン原子によって経験された。 1~約20位の设治以子を含む収換ヒドロカルビル基で収 描された置格ホスフォニウム基等のいづれかである:B およびCはそれぞれ窮素および炭素である:X、X′お よびX~は、ハイドライド芸、ハリド芸、1~約20世の 炭素原子を含むヒドロカルビル基、1箇以上の水米原子 がハロゲン原子によって置換された、1~約20箇の炭素 原子を含む置換ヒドロカルビル基、有機部分の各ヒドロ カルビル最後基が 1 ~約20箇の投業原子を含み金属が元 紫周期表の類Ⅳ-k族から選ばれる有種メタロイド基等か ら成る群から独立的に選択される基礎である:aおよび bは≥の整数である:Cは≥1の整数である;a+b+ c は 2 から約 8 までの餌致の整数である;m は 5 から約 22までの盤放である。

チオンのための別証的だが非制限的の対向イオンとして 1-カルバドデカポレートを用いる): モノヒドロカルピ ル軍換アンモニウム塩、たとえばメチルアルモニウム1-カルパドヲカポレート、エチルアンモニウム1-カルパド デカポレート、プロピルアンモニウム 1-カルバドデカポ レート、イソプロピルアンモニウム1-カルバドデカポレ ート、 (n-プチル)アンモニウム1-カルバドデカボレー ト、アニリニウム」-カルバドデカポレート、 (p-トリル) アンモニウム1-カルパドデカポレート等;ジヒドロカル ピル関格アンモニウム塩、たとえばジメチルアンモニウ ム1-カルバドデカボレート、ジェチルアンモニウム1-カ ルバドデカポレート、グプロピルアンモニウム1-カルバ ドデカポレート、ジイソプロピルアンモニカム1-カルバ ドテカポレート、ジ(1-ブチル)アンモニウム1-カルバ ドデカポレート、ジフェニルナンモニウム1-カルバドデ カポレート、ジ (ロートリル) アンモニウム1・カルバドデ カポレート答:トリヒドロカルピルー置換アンモニウム 塩、たとえばトリメチルアンモニウムニカルバドデカボ レート、トリエチルアンモニウム1-カルバドデカポレー ト、トリプロピルアンモニウム1-カルバドデカボレート、 トリ (n-プチル) アンモニウム1-カルパドデカポレート、 トリフェニルアンモニウム 1-カルバドデカボレート、ト リ (p-トリル) アンモニウム1-カルバドデカポレート、 N.N-ジメチルアニリウム [-カルパドデカポレート、N.N-ジェチルアニリニウム1-カルパドデカポレート答である。

特表平1-501950(9)

式 5 に相当する第二化合物の例証的だが制限的でない 例は「以下に列挙するアニオンの例紙的だが制限的でな い対向イオンとしてトリ (n-プチン) アンモニウムを川 いる]、アニオンの塩、たとえばピス (トリ (n-プチル) アンモニカム] ノナポレート、ピス [トリ (n-ブチル) アンモニゥム] デカポレート、ピス [トリ (n-ブチル) アンモニウム] ウンヂカポレート、ピス [トリ (n-ブチ ル) アンモニウム] ドデカポレート、ビス [トリ (n-ブ チル) アンモニウム] デカクロロデカポレート、ビス 【トリ(1-ブチル)アンモニウム」ドデカクロロドデカ ボレート、トリ(1-ブチル)アンモニウム1-カルパデカ ポレート、トリ (n-ブチル) アンモニウム1-カルパウン デカポレート、トリ (n-ブチル) アンモニウム1-カルパ ドデカポレート、トリ (n-プチル) アンモニウム1-トリ メチルシリル -1-カルパデカポレート、トリ (n-プチル) アンモニウム ジプロモ -1-カルパドデカポレート毎: ボランおよびカルポラン組化合物およびポランおよびカ ルポランアニオンの塩、たとえばデカポラン(14)、7.8~ ジカルパウンデカポラン(18)、2.7-ジカルパウンデカポ ラン(18)、ウンデカハイドライド -7.8-ジメチル=7.8-ジカルパウンデカポラン、ドテカハイドライド-11-メチ ル -2.7-ジカルパウンデカボラン、トリ(a-ブチル)ア ンモニウムウンデカポレート(14)、トリ (n-ブチル) ア ンモニウム 8-カルバデカボレート(12)、トリ (a-ブチル) アンモニウム 7 ーカルパウンデカポレート(18)、トリ

(ロ-ブチル) アンモニウム 1.8-ジカルパウンデカポレー ト (12)、トリ (n-プチル) アンモニウム 2.9-ジカルパゥ ンデカポレート (12)、トリ(g-プチル) アンモニウムド デカハイドライド -8-メチル7.9-ジカルパウンデカポレ ート、トリ (a-プチル) アンモニウム - ウンデカハイド ライド8-エチル -1.9-ジカルパウンデカポレート、トリ (a-ブチル) アンモニウム ウンデカハイドライド -8-ブチル -7.9-ジカルパウンデカポレート、トリ (n-ブチ ル) アンモニウムウンデカハイドライド -8-アリル -1. 9-ジカルバウンデカポレート、トリ(n-プチル)アンモ ニウムウンデカハイドライド -g-トリメチルシリル -1. 8-ジカルパウンデカポレート、トリ (n-ブチル) アンモ ニウム ウンデカハイドライド -4.8-ジプロモ -7-カル パウンデカポレート等;ポランおよびカルポランおよび ボランおよびカルボランの塩、たとえば4-カルパノナポ ラン(14)、1.8-ジカルパノナボラン(18)、8.9-ジカルパ デカポラン(14)、ドデカハイドライド -1-フェニル -1. 8-ジカルパノナポラン、ドデカハイドライド -L-メチル -1.3- ジカルバノナボラン、ウンデカハイドライド -1. 3-ジメチル -1.8-ジカルバノナボランち。

式 6 にしたがう第二の化合物の例証的だが非制限的な例は [以下に列挙するアニオンの例証的だが非制限的な対合イオンとしてトリ (n-ブチル) アンモニウムを用いて]、 全国カルボランの塩および全国ボランアニオン、たとえばトリ (n-ブチル) アンモニウムビス (ノナハイ

ドライド -1.3-ジカルパノナポレート》コパルテート (III) 、トリ (n-ブチル) アンモニウム ピス (ウンデ カハイドライド -1.8-ジカルパウンデカポレート) フェ レート(玖鮫塩)(皿)、トリ(n-プチル)アンモニウ ム ピス(ウンデカハイドライド -1.8-ジカルパウンデ カポレート) コパルテート (皿) 、トリ (ュープチル) ア ンモニウム ビス(ウンデカハイドライド -7.8-ジカル パウンデカポレート) ニッケレート (狙) 、トリ (n-プ チル) アンモニウム ピス (ウンデカハイドライド -1. 8-ジカルパウンデカポレート) キュプレート (捐設塩) (皿) 、トリ (a-プチル) アンモニウムビス (ウンデカ ハイドライド -7.4-ジカルパウンデカポレート) アウレ ート (金融塩) (缸)、トリ (n-プチル) アンモニウム ピス(フナハイドライド -7.8-ジメテル-7.8- ジカル バカンデカボレート) フェレート (皿) 、 ト リ (ユープチ ル) アンモニウムピス (ノナハイドライド -7.4-ジメチ ル -7.8-ジカルパウンデカポレート) クロメート (クロ ム酸塩) (皿) 、トリ (a-ブチル) アンモニウム ピス (トリプロモオクタハイドライド -1.8-ジカルパウンデ カポレート) コパルテート (皿) 、トリ (n-ブチル) ア ンモニウム ピス (ドヂカハイドライドジカルバドデカ ポレート) コバルテート (皿) 、ピス [トリ (s-ブチル) アンモニウム] ピス (ドデカハイドライドドデカボレー ト) ニッケレート (皿) 、トリス [トリ (ユープチル) ア ンモニウム] ピス (ウンデカハイドライド -1-カルパウ

ンデカボレート)クロメート(四)、 ピス [トリ (n-ブ チル) アンモニウム] ピス (ウンデカハイドライド -7-カルパウンデカボレート) マンガネート (N)、 ピス [トリ (n-ブチル) アンモニウム] ピス (クンデカハイドライド -1-カルパウンデカボレート) コパルテート (田)、 ピス [トリ (n-ブチル) アンモニウム] ピス (ウンデカハイドライド -1-カルパウンデカボレート) ニッケレート (IV) 等である。 代表的ホスフォニウム 化合物の同様なリストも例延の第二化合物として記すことがのきるが、 簡単にするために、 上記アンモニウム・および関係ホスフォニウム塩 に相当するホスフォニウム におよび関係ホスフォニウム 塩 そ本発明の第二化合物として 加いることができることだけをつけ加えておく。

というないである。第二化合物の数になるではいるではいるである。第二化合物の数に対して活性を付けることができるが、、建設性の分解性であることができるが、ないまたの分解性を生成するための安定なオレフィン型合金をあることが国際である。アンモニウム型とて、の分解に対して、が加水分解に対して、必らないのである。第二化合物の理性度が、があることも重要である。第二化合物の理性度が、が一代合物の性数である。反対に、金属精化合物の性数性も、必要なプロトンを動き容易にするために十分大きくなければならない。或る種のメタロセン化合

特表平1-501950(10)

物一例証的だが制限的でない例としてピス(ベンタメチルシクロベンタジェニル)ハフニウム ジメチルを用いる一は、最も強いブレンステッド放以外のすべてとの反応に抵抗する。したがってここに記載の触線を形成するための第一成分としては通していない。但して、水性溶液によって加水分解され得るピス(シクロベンタジェニル)金属化合物は、ここに記載の触線を形成する第一成分として通していると考えられる。

太奈明の活性触媒を形成するための所望のカチオンと 安定化イオンとの組み合わせに関して注意しなけらばな らないことは、活性触媒を作るために組み合わせる二つ の成分は、アニオンがモノマーまたはその他の中性リュ イス塩基によって確実に置換されるように選ばれなけら ばならない、ということである。これは、シクロペンタ ジェニル出表原子上の重換、並びにアニオンそのものへ 奴換に超因する立体陣書によって行われる。 ベルヒドロ カルビル収換シクロベンタジエニル金属化合物および/ またはかさ高の第二成分の使用は疑ね所望の組み合わせ を阻止しない、そして実際に、ほしてより不安定なアニ オンを与える。それからさらに、ベルヒドロカルビル屋 扱シクロペンタジェニル基から成る金属化合物(第一成 分)は、朱麗族シクロベンタジェニル基を含む金属化合 物に比べてより広い範囲の第二化合物と共に効果的に用 いられる。実際、ベルヒドロカルビル置換シクロペンタ ジェニル基を含む第一の化合物は、ほして、より大きい

合取略に加える前に、別の政略でその触媒を形成することが行ましい。触媒は自然発火性の種類を含まないが、 触媒成分は水分および酸素の両方に敏感であり、墜業、 アルゴンまたはヘリウムのような不活性環境でとり扱か ったり移したりすべきである。

発明者は特定の理論にしばられることを理まないが、 水発明の改良触媒の製造に用いられる二化合物が適した 溶線または特別剤中で結合するとき、第二化合物のカチ オン(プロトン)の全部または一部が金属含有(第一) 成分上の関係器の一つと結合すると考えられる。第一の 成分が上記の一般式1のそれに相当する式を有する場合、 中性の化合物が遊離し、それは溶液中に残るか、ガスと して放出される。この点に関して、第二化合物のカチオ ンがプロトンで、企属含有(第一)化合物の X 1 か X 1 が水炭化物(hydride)である場合は、水炭ガスが遊離す ることに注目しなけらばならない。同姓に、第二化合物 のカチオンがプロトンで、X: かX2 がメチル基である 場合、メタンがガスとして遊離する。第一成分が一般式 2. 3またはしのそれに相当する式を有する場合には、 **金属食有(第一)成分上の関格数の一つはプロトン化さ** れるが、挺して置換越は金属から遊離しない。金属倉育 (作一) 成分: 第二成分カチオンの比が約1:1または それ以上になるのが好ましい。第二化合物のカチオンの 共役塩基(conjugate base)は、もしそのような部分が及 っているならば、溶液中に残っている中性化合物がまた は形成された金銭カチオンとの鉛化合物である、ただし カチオンは低して、中性共役塩基と企属カチオンとの粘 合が弱いか、または存在しないように、選択される。こ うして、この共役塩盐の立体的かさが増えるにつれて、 それは活性触媒を妨害することなく類単に溶液中に残る。 たとえば、毎二化合物のカチオンがアンモニウムイオン であるならば、このイオンは水梨原子を遊離し、それは その後水素原子がカチオンであった場合のように反応し てガス状水霖、メタン苺を形成し、カチオンの共役塩基

はアンモニヤとなる。同じようにして、第二化合物のカ

特表平1-501950 (11)

チオンが、本発明において必要であるように最低100の水業屋子を含むとドロカルビル型換アンモニウムイオンであった場合、その水業原子は、水業がカチオンである場合と同じように反応し、カチオンの共役塩基はアミンとなるだろう。さらに、第二化合物のカチオンが木発明に必要であるように最低100のプロトンを含むヒドロカルビル键換ホスフォーウムイオンである場合、カチオンの共役塩基はホスフォンとなる。

特定の理論によってしばられたくはないが、金属含有(第一) 成分が第二成分と反応したとき、腱線製能に用いられる第二成分にはじめから含まれていた非配位性アニオンは、形式的には配位数3. a・4価を有する全世間からまない。そのカチオンかまたはその分解生成物と結合し、安定されたの分解生成物とお合し、安定されたがアニオンがクローン、ジオンフィンおよびアニオンははアレン性不応和モノマーともれだけできまったははアレン性の他のモノマーと一般していまった。これになったのはなった。カレン性不能和モノマーによっに、カレフィンをもにになまれるアニオンは、オレフィン、ジオレフィンをもにはならない。

上に記載のように、上に列挙した大部分の第一化合物 は上に列挙した大部分の第二化合物と総合して活性競響、 特に活性な重合触媒を生成する。しかしながら実際の活

能のオレフィン重合触媒は、ピス(ペルメチルシクロペ ンタジエニル) ジルコニウム ジメチルをトリ (n-ブチ ル)アンモニウム1・8-ジカルパウンデカポレート(12)ま たは1.8-ジカルバウンデカポラン(13)と一粘にし、反応 させることによって作られる。安定な、分離可能のオレ フィン重合触媒は、ピス(エチルテトラメチルシクロペ ンタジエニル) ジルコニウム ジメチルを7.8-ジカルパ カンデカボラン (18)と結合させることによっても作られ る。これらの場合の各々において、安定な型合粒媒は、 反応体を約−100℃~約 300℃の範囲内の選度で通した溶 堪または揺択剤に加えることによってつくられた。発明 者が入手し得るおれやこれやの情報に基づくと、分離可 能の、特徴づけ可能の置合触媒は、ピス(ペルヒドロカ ルビルー置換シクロベンタジエニル)金属化合物を上に 列挙した一つ以上の第二化合物と結合させることによっ ても得られることが明らかであるようにみえる。また、 活性だが分離不能の重合触媒は、各シクロペンタジエニ ル基上に5歳より少ないヒドロカルビル置換益を含むビ ス(シクロベンタジエニル)ジルコニウム化合物を、ブ ロトン供与性のカチオンと、メタロセンカチオンを安定 させることができ、瓜合中にオレフィン、ジオレフィン またはアセチレン性不能和モノマーによって置換される ほど十分不安定なアニオンを含む本発明の範囲内の適切 な第二化合物、特により大きいアニオンをもつ第二化合 物と反応させるときにも得られる。

性触体程は、それを分離し、その後間定するためには必ずしも十分安定ではない。その上、そして最初の企識のチオンの多くが比較的安定である一方、最初に形成された金融のチオンは分解して、活性型合動体をなった。以外のした部分の分解整物は触ばのに活性である。必りではいいがでは分解を物を含む、まだ分離されていない活性を観点では、分離された活性を関づけられた活性触媒をと同じは、分離され完全に特徴づけられた活性触媒をと同じは、分離され完全に特徴づけられた活性触媒をと同じは、分離され完全に特徴づけられた活性触媒をと同じない。

特定の理論によって、しばられたくないが上述したように、シクロベンタジェニルな上の図典の程度をおよれたとびに対するとはなって、特に活性なオレフィン自合地球を形成するとということを定めるといった。とも、おられている。この点に関して、メタロセンカチオンはだんだんで、与えられるアニオンはだんだんで、からの数さにつれて、与えられるアニオンはだんだんで、なって、メタロセンカチオンののないではなる。こうして、メタロセンカチオンはがんだって、ジェニル基上の関連基の数が5から0へ減るにつれて、リ大きいまには反応性のより小さいではならない。

前述のことに従えば、安定な、分離可能、特徴づけ可

生ずる化学反応を、以下に記載される一般式を参照して示す:

A. $(I-C_p^-)$ MI₁ X₂ + $[I'_1^-]$ $[I'_1^-]$ $[I'_2^-]$ $[I'_1^-]$ $[I'_1^-]$ [I'

B. (u-c_p) (n(, x' , + (u - + 1) * (B') → ((u-c_p) (n(, x' , n) * (B') → + ι' ± ≿ ((u-c_p) (n(, x' , n) * (B') → + ι'

C. (A-C_) ML+(L' -H) * (B') $^{-}$ \rightarrow ((A-C_) M(LID) * (B') $^{-}$ + L'

上記の反応式において、文字A~Dは、有用なメタロセン化合物のための一般式と組み合わせて示される数字1~4にそれぞれ相当する。B'は上の式 5 および 6 に 後略示される一般式に一致する遺合性イオンをあらわす。4つのみのメタロセンの各々の、N·N·-ジメチルーアニリニウムビス(7,8-ジカルパウンデカボレート)コパルテート(回)との反応を、溶液 IR MMR または ISC XMR スペクトロスコピーによって試験した。どの場合にも、上に低略示したものと一致する生成物が認められた。

概して、本発明の方法によって形成される安定な分離可能の触媒は溶媒から分離され、その後の使用のために保存されてもよい。しかしながら、分離されない触媒は、最後にオレフィン質合に用いられるまで、既ね溶液として保存される。或いは、本発明の方法によってつくられる触媒はいずれもその後の使用のために溶液として保持されるか、製造後直接、低合触線として使用される。そ

特表年1-501950(12)

の上、そして上記のように、触媒は、個々の成分を資合 容器に通すことによってそのままの場所でつくられても よい。その容器中で緯成分は接触し、反応して本発明の

挺して、そして上記のように、本発明の改良趙雄は、 従来のチーグラーーナッタ触媒について先行技術で知ら れる条件で、オレフィン、ジオレフィンおよび/または アセチレン性不飽和モノマーをそれだけで、またはその 他のオレフィンおよび/またはその他の不飽和モノマー と組み合わせて重合させる。本発明の重合プロセスでは、 分子費は、触媒造度、重合温度、および重合圧力の問数 であるようにみえる。概して、本処明の触媒で製造され るポリマーは、水岩をたはその他の連鎖停止剤のない空 気中で製造されるとかは、末端不飽和を含む。

本発明の触媒で製造されるポリマー生成物には、アル ミニウム、マグネシウム塩化物等のチーグラー・ナッタ 退勉媒で製造されるポリマーに長ね認められるいくつか の痕跡金属は、もちろんない。本発明の触媒で製造され たポリマー生成物は、アルミニウムアルキルのような金 属アルキルを含むより一般的なチーグラー・ナック触媒 で製造したポリマーよりも広範囲に応用されるはずであ

発明の評ましい実施例

本発明の好ましい実施例において、頂合触線は第Ⅳ-B 放金属の一つのビス(シクロペンタジエニル)化合物、

227:

B、C、H、MZはそれぞれ明素、炭素、水素および 連移金属; a z は O から 2 までの監数; b z は O から 2 までの整数: c 2 は 2 または 3 ; m z は 9 から 11ま での整数;az+bェ+cz=4;nzおよびdzは モれぞれ 2 と 2 、または 3 と 1 である。

アンモニウムカチオンの三置数器の名々は、同じかま たは異なる低級アルキル・またはアリール基である。低 級アルキルとは、1個から4個までの炭素原子を含むア ルキル技を意味する。式りによってあらわされるアニオ ンを用いる本発明の最も好ましい実施例では、ピス(ペ ンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメ チルがトリ (n-ブチル) アンモニウム1-カルバウンデカ ポレートと結合して、最も好ましい触媒を生成する。式 8であらわされるアニオンを用いる本発明の最も好まし い実施例では、ピス(ペンタメチルシクロペンタジエニ ル) ジルコニウム ジメチルが 1.8-ジカルパウンデカボ ラン(13)と、結合して、最も好ましい触媒を生成する。 式りによってあらわされるアニオンを用いる本発明の最 も好ましい実施例では、ピス(シクロペンタジエニル) ジルコニウム- または -ハフニウム ジメチルが N. N-ジ メチルアニリニウムピス(1.8-ジカルパウンデカポレー ト) コパルテート (皿) と結合して最も好ましい触媒を 生成する。本発明の好ましい災趣例では触媒を作るのに 用いる二成分が約0℃~約 100℃の温度範囲で結合する。

もっとも好ましくは、二つが独立的に選換された。また は黒塊されないシクロベンタジュニルなおとびこっの低 級アルキル関係甚または二つの水素化物を含むビス(シ クロベンタジエニル) ジルコニウム、またはピス(シク ロペンタジエニル)ハフニウム化合物を、以下に記載の ものの一つと結合させることによって得られる:

- (1) 次の一般式を満足するポランまたはカルポランの 三国換アンモニウム塩:
 - 7. [(CH) az (BH) ha] cs*
- 2 2 T :

B、CおよびHはそれぞれ硼聚、炭栗、水紫; a x (± 0 ft 1; c x (± 1 ft 2; a x + c x = 2; b x は10から12までの整数。

- (2) 次の一般式を満足するボランまたはカルボランア ニオンの三置換アンモニウム塩、または中性ポランまた はカルポラン化合物。
 - 8. ((CH) , (BH) , H ,) Cy-

227:

B、C、Hはそれぞれ朝柔、炭素および水素; a y は 0 から 2 までの 整数; b y は 0 から 3 までの 難 飲;cyは0から3までの監数;ay+by+cy= 4; myは9から18までの整数。

- (3) 次の一般式を満足する金属ポランまたは金属カル ポランアニオンのこ置換アンモニウム塩。
 - 9. [[[(CH) az (BH) az Har] es-] 2 MZ ez-] dz-

それら成分は、好ましくは芳香族皮化水森溶媒中で、最 も好ましくはトルエン中で結合する。約10秒から約80分 までの範囲の公称保持時間は、本発明の好ましい、およ び最も好ましい触媒を作るには十分である。

本発明の好ましい、そして最も好ましい実施例におい ては、形成直後の触媒を用いて1種類またはそれ以上の 低級ローオシフィン、特にエチレンおよびプロピレン、 最も好ましくはエチレンを約0℃から約 100℃までの温 度範囲で、約15psig(1.05 kg/cd) ~約 500psig (35kg /cil)の範囲内の圧力で重合する。モノマーは公称保持 時間、約1~約80分の間面合条件下に保持され、触収は、 沼蝶または稀沢剤】リットルあたり約10⁻⁵~約10⁻¹モル の範囲内の適度で用いられる。

こうして本類明およびその好ましい、および最も好 ましい実施感様を広く説明したが、同じことは次の実 推例を容以することによってさらに明らかになる。しか し、実施例は説明の目的のためにのみ示されるのであっ て、発明を制限するものでないことは当然である。活性 触媒を分離し、確認する実施例では、分析は樹体状態の 18c NMR スペクトロスコピーおよび榕被 ¹8 NMR スペク トロスコピーによって行った。

災施例 1

この実施例において、活性オレフィン型合触媒は、 1.0 gのピス(ペンタメチル -シクロペンタジュニル) ジルコニウム ジメチルを50㎡トルエン中で結合させ、

それから 0.82 m トリ (n-ブチル) アンモニウム 7.8-ジカルパウンデカボレート (12) を加えることによって作られ、分離された。 混合物を窒温で 30分間 収辞し、 希望を最初の窓屋の半分になるまで蒸発させ、ベンタンを、繰り点まで加えた。 一級 -20でで冷却した後、 英色配体を浮取し、ベンタンで洗い、 乾燥した。 活性触解の 収益は 0.75 m であった。 この生成物の一部を分析し、 ビス (ペンタメチルシクロベンタジエニル) メチル (ドデカハイドライド-7.8- ジカルパウンデカボレート) ジルコニウムとして確認された。

実施例 2

この実施例では、 1.2 g の ピス (ベンタメテルシクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチルを 100mlベンタンに溶かし、それから、 0.8 g c の 7.8-ジカルバウン デカボラン (13)を含むトルエン溶液 5 ml を施下して加える でいる 明 数色の 固体が 沈和した。 30分後、 歯体を 护取した。 なの分後、 歯体を 护取した。 生成物の 収量 は 0.95 g で で むった。 生成物の一部を分析し、 実施例 1 で 生成した 同じ ご 性 触 蝶 である ピス (ベンタメチルシクロベンタジエニル) メチル (ドデカハイドライド-7.8- ジカルバウンデカボレート) ジルコニウムとして 確認された。

実施例 3

この収施例では、 0.425gのピス(エチレテトラメチルシクロペンタンジエニル)ジルコニウム ジメチルを

反応器から排出させ、反応器を開けた。生成した線状ポリエチレンの収益は74.8gであった。

采取例 6

この実施例では、再び、実施例2で生成した触線の一部でエチレンを指合した、すなわち触媒75mを 100ml クロロベンゼンにおかし、それを緊急気流下で、あらかじめ窒素をどっと適し込んだ、促作できる別鉄製 1 リットルオートクレーヴに移した。オートクレーヴを150ps18(10.5ks/cf) エチレンで加圧し、40でで復搾した。20分後、反応器から排出し、反応器を関けた。生成した類状ポリエチレンの収益は 3.3gであった。

異雄例 7

この裏遊例では、80m ピス(ベンタメチルシクロベンタジエニル)ジルコニウム ジメチルおよび 85mg 1・2・ジカルパウンデカボラン (13)を 20ml ジクロロメタンに 熔解することによってその場所で生成した活性 粒鉛でエチレンを 連合した。それから大気条件下でエチレンを 沿脚 中に 1 分間 よくぶくと通し、そのスラリーをその後 沿側のエタノールに注入した。生成したポリエチレンを 沪収し、水とアセトンで洗い、 乾燥した。ポリエチレン収量は 1.6g だった。

與麻鉀 8

この実施例では、トルエン(5 ml) 中でピス(ベンタ メチルシクロベンタジェニル) ジルコニウム ジメチル (46 mm) をオクタデカボラン(22)(20 mm) と股応させる 60回のペンタンに溶解し、 0.125gの7.8-ジカルパウンデカボラン(18)を含むトルエン溶液 5 回を施下して加えることによって活性オレフィン協合触線が作られた。溶液から明黄色関体が沈楽した。 15分後、関体を摂取し、ペンタンで洗い、乾燥した。生成物の収益は 0.502gだった。生成物の一部を分析し、ビス(エチルテトラメチルシクロペンタジエニル)メチル(ドデカハイドライド7.8-ジカルパウンデカボレート)ジルコニウムと確認した。

英越例 4

この変施例では、実施例 2 で生成した触媒の一部を用いてエチレンを取合した、すなわち、この触媒 50 概を100ml トルエンに指かし、その触媒溶液を変素気流下で、あらかじめ窒素をどっと流し込んだ、復存できる傾鉄製 1 リットルオートクレーヴにむした。そのオートクレーヴを 200psig (21kg/cd) エチレンで加圧し、60でで按 伴した。30分後、反応忍から排出させ、反応器を開けた。生成した線状ポリエチレンの収益は 22.95 c であった。

この実施例では、実施例 3 で生成した触線でエチレンを重合した、すなわちこの触線 50cg を 100mlトルエンに溶解し、その触線溶液を窒素気流下で、あらかじめ窒素をどっと吹き込んだ、保持できる解鉄製 1 リットルオートクレーヴに移した。オートクレーヴを 400psig (28kg /cd) エチレンで加圧し、40℃で投撑した。 1 時間後、

ことによって活性触線を作った。かなり多位のガス放出があった。エチレンをその線液に1分間通すと、構液は熱くなった。パイアルを切け、アセトンを加えるとポリマーが批源し、それを行取してアセトンで洗い、乾燥した。分陰されたポリマーの収益は0.82cであった。

实施例 9

この実施例では、 serue-capped丸 窓 フラスコ 中で、 トルエン (50 ml) 中で ピス (ベンタメチル シクロベンタ ジエニル) ジルコニウム ジメチル (40 mr) を トリ (a-ブチル) アンモニウム トリデカイハイドライド -7-カルパウンデカボレート (80 mg) と反応させることによって 活性触媒を製造した。その熔液は 無色から 投資色になった。エチレンを 1 分間 その溶液に通すと、その溶液は熱くなり、ポリマーが溶液から沈澱した。

実施例__10

この変数例では、ヘキサジュウチリオベンゼン1 町中で 50 m ピス(ベンタメチルレクロベンタジエニル)ジルコニウム ジメチルと 40 mg トリ(n-ブチル) アンモニウム1-カルバドデカボレートを結合をせ、 その溶液を MNR チューブに入れるという方法で、活性触線が NRB チューブ中で製造された。その後、 ¹ B NAB スペクトロスコピーによって原材料の消失が認められた、そして原料が消失したとき、エチレンを NNBチューブに注入した。 固体ポリマーが溶液から沈銀した。

実施例 [1]

この実施例でも、ヘキサジュウチリオベンゼン1 al 中に 100mg ピス(1.3-ビス(トリメチルシリル)シクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチルおよび 60mg トリ (0-ブチル) アンモニウム I-カルバドデカルボレートを溶かし、それからその溶液を NMRチューブに入れるという方法で、活性触媒が KMRチューブ中で製造された。 III NMR スペクトラムで源料の消失が認められた。 原料のジルコニウム化合物が全部消失したとき、エチレンをチューブに注入し、固体ボリマーが溶液から沈澱した。 変施例 12

この実施例でも、ヘキサジュウチリオペンゼン1 ml中に 100mg(ペンクメチルシクロペンタジエニル)(1.3-ピス(トリメチルシリル)シクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチルおよび70mgトリ(ロブチル) アンモニウム1-カルバドデカポレートを溶かし、それからその溶液を NMRチューブ中に入れることによって、活性灿蝶を NMRチューブ中に形成した。 H¹ NMR スペクトラムによって原料の消失を追跡し、原料ジルコニウム化合物の全部が消失したときエチレンをチューブに注入した。そ

実施例 13

この実施例では、serua-cappadパイアル中で、トルエン 7 ml 中で 8 0 mg ピス (ベンタメチルシクロベンタジエニル) ジルコニウム ジメチルおよび 5 0 mg ピス [トリ (n-プチル) アンモニウム) ドデカボレートを懸微させるこ

の後間はのエチレンポリマーが溶被から沈難した。

チレンの収益は0.41gであった。

英龍例 16

この変施例では、serve-cappedパイアルに入れたトルエン (10ml) 中でピス (ベンタメチルシクロベンタジエニル) ジルロニウム ジメチル (40mg) をN・N・ジメチルアニリニウムピス (1.8-ジカルパウンデカボレート) フェレート (田) と反応させることによって活性触媒を設造した。エチレンを溶液を通すと、混合物は熱くなり、ポリマーが生成した。パイアルを開け、内容物をアセトンで結択した。それから沪過し、乾燥した。分離したポリマーの収録は0.83gであった。

異胞例 17

この実施例では、serus-capped丸匹フラスコに入れたトルエン (30ml) 中でピス (ペンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル (40mg) をトリ (ロプチル) アンモニウムピス (1.8-ジカルパウンデカボレート) ニッケレート (皿) (45mg) と反応させることによって活性触媒を作った。エチレンを1分間溶液を通した。ポリマーが溶液から沈澱するにつれて溶液は熱くなった。フラスコを開けて内容物をアセトンで稀釈した。 図体ポリマーの収量は0.48gであった。

実施例 18

この実施例では、ゴム陽線をかぶせた 250ml 丸低フラスコ中の 100mlトルエンに、 100mg ピス(メチルシクロ

とによって活性触媒を製造した。混合すると、整調液は 無色から質疑色に変った。エチレンを 8 0 秒 間溶液を過す と、溶液が進かくなるにつれて白色ボリマーが生成した。 パイアルをあけ、ポリマーをエタノールで沈澱させた。 ポリエチレンの収益は 0.18 まであった。

<u>実施例 14</u>

この製粒例ではserve-cappedパイアルに入れたトルエン (5 ml) 中でピス (ペンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル (45 mg) をトリ (n-ブチル) アンモニウム ウンデカハイドライド -1-カルパウンデカボレート (30 mg) と反応させることによって活性触線が製造された。溶液は無色から質色に変った。エチレンを80秒間溶液を道すと、溶液は熱くなり、ポリマーが洗漉した。

與範例 15

この実施的では、serum-cappedパイアル中でトルエン5 alに 8 Bag ピス(ペンタメチルシクロペンタジェニル)ジルコニウム ジメチルおよび 9 Cap N・N・ジメチルアニリニウムピス(1・8・ジカルパウンデカボレート) コパルテート (国) を懸認させることによって、活性触媒を作った。 黄色溶液はガス放出と共に担禁色に変った。エチレンを 30秒間溶液を適すと、溶液はかなりの熱を放出して深無色に変り、粘稠になった。パイアルを開け、固体をエタノールで沈麗させた。これを 10% 荀佳ソーダ水溶液、エタノール、アセトンおよびヘキサンで洗った。ポリエ

ベンタジエニル)ジルコニウム ジハイドライドおよび 180mg N.N' - ジメチルアニリニウム ピス(1.8-ジカルパウンデカポレート)コバルラート (田) を懸調することによって活性触媒をつくった。エチレンを10分間、 治彼を通した。フラスコを開け、内名物をヘキサンに注 入し、护別し、乾燥した。ポリマー収録は2.88g であった。

実施例 19

この次級例では、ゴム隔版でキャップをした 100ml 丸塩フラスコ中のトルエン 50mlに 105mg ピス [1.8-ピス (トリメチルシリル) シクロベンタジエニル] ジルコニ ワム ジメチルおよび 80mg N.N-ジメチルアニリニウム ピス (1.8-ジカルバウンデカボレート) コバルテート (国) を懸めすることによって活性触媒をつくった。エ チレンを10分間溶液を適した。フラスコを開け、内容物 をエタノール中に注ぎ、蒸発させた。ポリマーの収益は 2.1g であった。

實施例 20

この実施例ではゴム開放でキャップした 100回丸底フラスコに入れたトルエン50回中で、50m ピス (シクロベンクジエニル) ジルコニウム ジメチルおよび90mm N.N-ジメチルアニリニウムビス (7.8-ジカルパワンデカボレート) コパルテート (皿) を損性することによって活性触媒をつくった。エチレンをその溶液を過すと、1分間は明らかな反応は認められなかったが、その後、関学な

特表平1-501950 (15)

温瀬を見ることができた。10分後、フラスコを開け、内 容物をエタノールで特択し、弦発させた。ポリマーの収 量は 1.9g であった。

双斑例 21

この実施例では、隔段でキャップした (scplus-capped) 丸証フラスコに入れたトルエン 50ml 中で 69mg ピス (シクロペンタジエニル) ハフニウム ジメチルを 90mg N.H-ジメチルアニリニウム ピス (1.8-ジカルバウンデカポレート) コバルテート (田) と反応させることによってエチレンを重合した。エチレンを溶液を通すと、30秒後に顕著な混凝があらわれ、溶液は熱くなった。10分後、溶液をアセトンに注入し、ポリマーを摂別し、乾燥した。 銀状ポリエチレンの収益は 2.2gであった。

夹 施 例 22

この変態例ではserus-cappedバイアルに入れたトルエン5 ml ピス(トリメチルシリルシクロベンタジエニル)ハフニウム ジメチルを 45 mg N, N-ジメチルアニリニウムピス(7.8-ジカルバウンデカボレート)コバルテート(田)と反応させることによってエチレンを重合した。エチレンを溶液を通すと、ポリマーが生成し、混合物は熱くなった。 1 分後、バイアルを開け、内容物をアセトンでうずめて、 沪別した。 線状ポリエチレンの収益は0.35 g であった。

実施的 23

この実施例では、トルエン雑財剤中でエチレンと!ブ

/ cd) エチレンで加圧した。オートクレーヴを50でで 20 分間提择し、その後待やし、鋳出させた。内容物を空気気流下で乾燥した。分離ポリマーの収益は 75.1 g であった。ポリマーの融点は 109℃で、赤外スペクトロスコピーによる分析は、炭素原子 100位につき約 29のエチル分後があることがわかった。

夹脏树 25

この実施例では、serum-capped丸底フラスコに入れた25mlトルエン中で65mg 1-ピス(シクロベンタジエニル)チタン -2-ジメチル -シラシクロブタンおよび88mg N.N-ジメチルアニリニウム ピス(7.8-ジカルパウンデカボレート)コバルテート(四)を反応させることによって、エチレンを重合した。溶液は、エチレンを過すと無ずんだ。10分後、フラスコを開け、内容物をエクノールで移収した。ポリマーをip別し、エタノールおよびアセトンで洗い、乾かした。分離ポリエチレンの収益は6.08gであった。

<u> 奖施例 28</u>

この要疑例では、sorus-capped丸性フラスコに入れたトルエン 20ml 中で、 61 mg 1-ビス (シクロベンタジエニル)ジルコン -3-ジメチルシラシクロブタンおよび 87 mg N・N-ジメチルアニリニウム ピス (7・8-ジカルパウンデカボレート) コバルテート (II) を反応させることによってエチレンを融合した。エチレンを格波を通すと、溶液は温かくなってポリマーが洗練した。 10分後、パイアルを

テンを共置合させた、そのためには、50mg ピス(シクロペンタジェニル)ジルコニウム ジメチルおよび 45mg N. H-ジメチルアニリニウム ピス(1.8-ジカルバウンデカボレート)コバルテート(田)からそのままの場所でつくられた触線を含むトルエン溶液 35ml を、窓 数 気トルエン 400ml を含む 1 リットル、ステンレス期 到オートクレーヴに加えた。1-ブテン(200ml)をそのオートクレーヴに加え、それをさらに 120pals(7.18 kg/cmi)のエチレンで圧をかけた。オートクレーヴを50℃で30分間 辺 押し、それから冷やし、(ガスを) 排出させた。内容物を空気流下で乾燥した。分離したポリマーの固定は44.7g であった。ポリマーの融点は 117℃で、郊外スペクトロスコピーによる分析の結果、1000炭 紫原子あたり、約17のエチル分枝があることがわかった。

实施例 24

この実施例では、70mmビス(シクロベンタジエニル)ハフニウム ジメチルおよび 45mg N.N-ジメチルアニリニウム ビス(7.8-ジカルバウンデカボレート) コバルテート (皿) を含む触錐 -トルエン溶液 50ml を、あらかじめ窒素を流し込んだ、 400ml 乾燥、 無 歳未トルエンを含む 1 リットル -ステンレス 解 製オートクレーヴに、 監 素 気液下で 加えるという 方法で、 エチレンと 1-ブテンをトルエン 括 級 被 中で共 量合させた。 1-ブテン (200ml) をオートクレーヴに 加えた、それを含らに 120ms 1g (7.18 kg

関け、内容物をエクノールで稀択した。 沈和を伊朗し、 エクノールで洗い、 乾燥した。 分離したポリエチレンの 収益は 1.41 g であった。

安雄例 27

この実施例では、serva-cappod丸低フラスコに入れたトルエン20ml 中で 82 ml l - ビス(シクロベンクジエニル)ハフナー8-ジメチルシラシクロブタンおよび 8 mm kl - ジメチルアニリニウム ビス(7.8-ジカルパウンデカボレート)コパルテート(皿)を反応させることによってエチレンを重合させた。エチレンを溶液を過すと、ポリマーが沈澱し、溶液は熱くなった。5分後、フラスコを開け、内容物をエクノールでうすめた。ポリマーを沪別し、エタノールで洗い、乾燥した。分離したポリエチレンの収益は1.54 c であった。

122 HC 654 2 8

この実施例では、serus-cappodびんに入れたトルエン50ml中で67eg ピス(シクロペンタジエニル)ジルコニウム(2.8-ジメチル・1.3-ブタジエン)および88em N.N-ジメチルアニリニウム ピス(7.8-ジカルパウンデカポレート)コパルテート(皿)を反応させることによってエチレンを餌合した。エチレンを譲渡を通すと、溶液は徐々に温かくなった。15分後、びんを関け、内容物をエタノールで移収した。ポリマーを沪別し、エタノールで洗い、乾益した。分離したポリマーの収益は1.67g であった。

特表平1-501950 (16)

実施例 29

この 変 経 例 で は、 sorus-eapped び ん に 入れた 50 ml トルエン 中 で 40 mg ピス (シクロペンタ ジェニル) ハフニウム (2.3-ジメチルー1・3-ブタジェン) を 43 mg N・H・ジメチルアニリニウム ピス (7.8-ジカルパウンデカポレート) コバルテート (皿) と 反応させる ことによってエチレンを 距合した。 エチレンを 溶液を 通した、 溶液 は 30 砂 以内に 混濁した。 20分後 び んを 聞け、 内容物を エタノールで 洗い、 乾燥した。 分離した ポリエチレンの 収量 は 0.43 m で あった。

夹箍例 30

この実接例では、serua-capped丸底フラスコに入れたトルエン20回中で55mg(ベンタメチルシクロベンタジエニル)(テトラメチル -エタ¹ - メチレン -エタ⁵ - シクロベンタジエニル)ジルコニウム フェニルおよび45mg N. N-ジメチルアニリニウム ピス(7. N-ジカルパウンデカボレート)コバルテート (回)を反応させることによってエチレンを適合させた。エチレンを溶液を適すと、ほとんど興時にポリマーが生成し、多益の熱が放出された。5分後、フラスコを関け、内容物をエタノールで揺れした。沈殿物を沪別し、アセトンで洗い、乾燥した。分離したポリエチレン収量は0.55mg であった。

寒 維 例 31

この実施例では、serve-cappedびんに入れたトルエン

る。この理由から、本発明の真の範囲を定める目的のた めには、系付の特許請求の範囲のみを参照すべきである。 50回中で80g(ベンタメチルシクロベンタジエニル) (テトラメチルシクロベンタジエニルメチレン)ハフニ ウム ベンジルおよび 50g N.N-ジメチルアニリニウム ピス(1.8-ジカルパウンデカポレート)コパルチート (国)を反応させることによってエチレンを頂合させた。 エチレンを10分間その溶液を通した。溶液が温かくなる につれてポリマーが沈澱した。ぴんを開け、内彩物をエ タノールで稀釈した。固体ポリマーを沪別し、アセトン で洗い、乾かした。分離したポリエチレンの収益は0.82 gであった。

夹施例 32

この実施例では、10mlトルエン中で 0.42g ピス(トリメチルシリルシクロベンクジエニル)ハフニウム ジメチルを 0.08g k.k-ジメチルアニリニウム ピス(1.8-ジカルバウンデカポレート)コバルチート (四) と反応させることによってエチレンを重合した。この溶液の一部(0.4ml) をイソバール (1sopar)の 3000パール (3059kg v/cd)の の圧力下で、エチレンで 1600パール (1530kg v/cd) に加圧されたオートクレーヴに注入し、 180℃に加熱した。5 秒後、オートクレーヴから内容物を出した。 重量平均分子型 144.000 、分子量分布 2.9をもつ線状ポリエチレン(2.1g) が分離された。

本発明を、その特別の実施態様を参照して記述し、説明したが、熱難せる当策者は、ここに必ずしも説明されていない変更にも同じことが有効であることを理解でき

手 続 補 正 魯

昭和63年12月7日

特許庁長官 殿

1 事件の表示

国際出類番号 PCT/US88/00222

2 発明の名称

触媒、これらの触媒の製法およびこれらの触媒を使用する 重合プロセス

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 エクソン・ケミカル・パテンツ・インク

4 代理人

氏 名

住 所 東京都千代田区永田町1丁目11番28号

相互永田町ピルディング 8階 電話 581-9371

(7101) 弁理士 山 崎 行 造

周 所 R (7603) 弁理十 木 村

氏名 (7603) 弁理士 木 村 岡 所

氏名 (9444)弁理士 竹 中 俊 子

5 補正命令の日付

昭和年月日

福正の対象

タイプ印像により浄書した明細書及び請求の範囲の翻訳文。

7 補正の内容

別柄のとおり



国際阴瓷報告

| CLASSATICATION OF SURJECT MATTE A server consequent actions not compared to the content of the

ELECTEAN PATENT OFFICE

国 祭 賞 査 報 告

V\$ 8600222 SA 20798

This array lists the potent family throughout retaining to the potent documents private in the above-minimum improveded anothe property. The amounts are an exeminate in the European Picture LOFA to an outgoing the private Control LOFA to a control LOFA to an outgoing the private Control LOFA to a control LOFA to a control LOFA to an outgoing the control LOFA to a control LOFA to a

Paters sorument Publication core or various report date	Publicative date	Petror family management		Punkai
EP-A- 0200351	05-17-26	JP-A- US-A- JP-A-	4704491	01-10-E5 03-11-87 03-06-87
US-A- 3231599		Hone		

特許法第17条第1項乂は第17条の2の規定 による補正の掲載

昭和63年特許顕第501758号(特表平 1-501950号、平成 1年 7月 6日発行公表特許 公報)については特許法第17条第1項又は第17条の2 の規定による補正があったので下配のとおり掲載する。

Int.CI.	識別 記号	庁内整理番号
COSF 4/642	MFG	8319-4J
C07F 17/00		9155-4H
COSF 10/00		
		•
	l	
	1	1

明顯書中特許議求の範囲を次のように訂正する。 「特許請求の範囲

1. 次の一般式

(A-Cp)NX.B

によってあらわされ、

ここで: Mはチタニウム(Ti)、ジルコニウム(2r)および

ハフニウム(lif)から岐る群から選択される金属で;(A – C p)は(C p) (Cp^{*}) またはCp-A^{*} - Cp^{*}で、CpとCp^{*}は同じかまたは異なる 置換っまたは未置換のシクロペンタジエニル基で:A は野▽-A 展元業を 念む共有結合架橋基であり;Xiはハイドライド基、ヒドロカルビル基、有 組メタロイド基等から成る群から選択され、B' は次の一般式

(CX) (BX') X' () "

ここで、BおよびCはそれぞれ研索および炭素;

X、X′ およびX゚ はハイドライド基、ハリド基、ヒドロカルビル基、有 機メタロイド基等から成る群から独立的に選択される基で;

a および b は ≥ 0の复数で; c は ≥ 1の整数; a + b + c は2から約8までの 偶数の整数;mは5から約22までの範囲の整数;および

{[[(CX3), (BX4), (X3), }' '], N'']a.

ここで、B、CおよびMはそれぞれ研索、炭素および遷移金属:Xっ、X」お よびX;はハイドライド基、ハリド基、ヒドロカルビル基、有機メタロイド 基等から成る群から独立的に選択され; * および b は同じか異なる≥0 の整数; c'は≥2の整数; a'+b'+c'は4から約8までの偶数の整数; m′は6から約12までの整数:nは2c′-n=dとなるような整数:dは≥ 1の整数である:

のうちの一つの式によってあらわされる場合性非配位性アニオンである化合 物を含む物質組成物。

2. (A-Cp) がビス (ベルアルキル重換ーシクロベンタジエニル) で、※ がアルキル基で;B′が(ドデカハイドライド-7、8-シカルパウンデカポ レート)で、Mがジルコニウムであり、ベルアルキル置換シクロペンタジエ

平成 7.8.18

平成 7年 1月27日

特許庁長官

团

1 事件の表示

昭和63年特許顧第501.758号

触媒、これらの触媒の製法およびこれらの触媒を使用する遺合プロセス

3 矯正をする費

事件との関係 特許出願人

名 称 エクソン・ケミカル・パテンツ・インク

4 代 理 人

東京都千代田区永田町11日11番28号 住 所 相互永田町ビルディング 8階

電話 3581-9371

(7101) 弁理士 山 崎 行

同新

(7803) 弁理士



5 拒絶理由避知の日付

平成 年 月

6 横正の対象 請求の範囲。

7 第正の内容

別紙のとおり。





ニル基の各アルキル基が独立的にC、一C、アルキル基で、アルキル群は Cェー Cznアルキル基で、ペルアルキル置換基は好ましくはペンタメチルま たはエチルテトラメチルで、アルキル基は好ましくはメチル基である請求項 1 に記載の物質組成物。

- 3. (a) 適した拮似または希釈剤中で、プロトンと反応できる最低一つの置換 基を含むピス(シクロペンタジエニル)金属化合物から成り、前記金属が チタニウム、ジルコニウムおよびハフニウムから成る群から選択される最 低一つの第一化合物および、プロトンを与えることができるカチオンと。 複数の硼素原子を含む、かさ高で不安定で、二化合物間の反応の結果生成 する金属カチオンを安定化することができるアニオンとから成る最低一つ の第二化合物を一緒にし、
- (b) 第二化合物のカチオンによって機供されるプロトンが前記金属化合物に 含まれる前配置換落と反応するのに十分な時間、段階(a)で接触を保持し、
- (c) 段階(b)からの直接生成物として、または1つまたはそれ以上の前記直 接生成物の分解整物として、活性触媒を回収する。

諸段階から成る、触媒の製法。

4. 前記ピス(シクロペンタジエニル)金属化合物が次の一般式によって長さ n:

(A-Cp)8X,X2

(A-Cp) #X' , X' ,

(A-Cp)乳および/または

(Cp*)(CpR)EX

ここで、Mはチタニウム(Ti)、ジルコニウム(Zr)およびハフニウム(Bf)から 成る群から選択される金属;(A-Cp)は(Cp)(Cp^*)またはCp $-A' = Cp^{*}$ で、 $CpおよびCp^{*}$ は同じかまたは異なる歴後または未歴後 のシクロペンタジエニル基で、任意に2箇の独立的に産挽された。または匿 換されない基であり:A'は第IV - A族の元素を含む共有紡合領鑑某であり: しはオレフィン、ジオレフィンまたはアリインリガンドである; X,および X」はハイドライド基、ヒドロカルビル基、健康ヒドロカルビル基、任意に

平成 7.8.18 発行

2 簡の係数アルキル関係基または 2 額のハイドライド、有機メタロイド基等から成る群から独立的に選択され: X 、および X 。は金属原子に結合して金属サイクルを形成し、ここでは金属、 X 、および X 。は約3万至的20の炭素原子を含む炭化水素理を形成し: R は、やはり金属原子に結合したシクロペンタジェニル基の一つの上にある微鏡系である、端束項3 に記載の方法。

5. 前記第二化合物が、次の一般式

[L'-8] [(CX) (BX') "X' "].

ここで、L'ーHはH'、アンキニウムまたは、ヒドロカルビルまたは関係 ヒドロカルビル基で厚換される 3 簡までの水業原子をもつ屋積アンモニウム 基、ホスフォニウム、またはヒドロカルビルまたは優換ヒドロカルビル基に よって 3 値までの水業原子が置きされた屋換ホスフォニウム基等であり; B および C はそれぞれ研究および次 者であり; X、X' およびX' はハイドライド基、ハリド基、ヒドロカルビン基、有機メタロイド兼等から成る野から 独立的に選ばれる基であり; a お。びりは≥0の軽数で; c は≥1の整数; a +b+c = 2から約8までの供数の整数; mは5~約22の範囲の整数である; および / または

[L'-H] [[[(CX*)** (BX*)** (X*)** ; ***]*H**j***

ここで、L´ー目はH、アンモニウ」または、ヒドロカルビルまたは屋換ヒドロカルビル第で3箇までの水素原子が屋換された屋換アンモニウム基、ホスフォニウムまたはヒドロカルビルまたは屋換ヒドロカルビル第で3箇までの水業原子が屋換された屋換ホスフォニウム基等であり、B、C、M、および日はそれぞれ研索、炭素、運移金属および水素であり、X・X・8よびはX・ハイドライド基、ハリド基、ヒドロカルビル基、有機メタロイド基等から成る群から独立的に選ばれ:a、およびり、は同じか異なるこの整数であり;c、は220整数;a + b´+ c´ー=4から約8までの偶数の要は、m´は6から約12までの整数;n は2 c´ー n ー d となるような整数;d は6から約12までの整数・n は2 c´ー n ー d となるような整数・対象である。の中の一つによってあらわされる辨求項3または贈求項4に記載の方法。

6. 段階(a)の接触が約-100℃~約300℃までの範囲の温度で、好ましくは0~

- 10. 前記第二化合物がトリ (n-ブチル) アンモニウム7,8-ジカルパウンデカボレートおよびトリ (n-ブチル) アンモニウムトリデカハイドライド-7-カルパウンデカボレートから成る群から選択され、この場合第一化合物が行ましくはビス (ペンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチルであり、かつ/またはし1 ーHがH1、より呼ましくは7.8-ジカルパウンデカボラン(13)またはオクタデカボラン(22)であり、この場合任意に前配第一化合物がビス (ペンタメチルシクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチルおら成る群から選択される情次項9に記載の方法。
- 11. 前配第二化合物が次の一般式によってあらわされ: {L'-B}[[{(CB)..(BB)..:Bb.,]'' },MZ***-]***

ここで、L'ーHはH'、アンモニウムまたける箇までの水素原子がヒドロカルビルまたは屋換とドロカルビル基で屋換された優換アンモニウム基、ホスフォニウム、またはる罰までの水素原子がヒドロカルビルまたは屋換ヒドロカルビル基によって優換された屋換ホスフォニウム基等であり: B、C、計およびMではそれぞれ研索、炭素、水素および遷移金属であり: a z は 0 から 2 までの整数: b z は 0 から 2 までの整数: b z は 0 から 2 までの整数: c z は 2 か3; m z は 9 から 1 1 までの整数: a z + b z + c z = 4; n z およびd z はそれぞれ 2 と 2、または 3 と 1 である、請求項 3 乃至博次項 6 のいずれかに記載の方

12. 前記第二化合物が N. N-ジメチルアニリニウムビス (ウンデカハイドライド
-7. 8-ジカルパウンデカボレート) コパルテート (田) であり、かつ/または前記第一化合物が1-ビス (シクロペンタジエニル) チタナ-3-ジメチルシランクロブタン、1-ビス (シクロペンタジエニル) ジルコナ-3-ジメチルシランクロブタン、 および1-ビス (シクロペンタジエニル) フルコニウム (2.8 ジメチル-1.3. -ブタジエン) およびビス (シクロペンタジエニル) ハフニウム (2.8 ジメチル-1.3. -ブタジエン) およびビス (シクロペンタジエニル) ハフニウム (2.8 ジメチル-1.3 -ブタジエン) 、 (ペンタメチルシクロペンタジエニル) (テトラメチルシクロペンタジエニル)

45,000prig(0~28471kg/cd)の圧力下で行われる請求項3乃至5のいずれかに 記載の方法。

7. 第二化合物が一般式

[L'-B][(CH),,(BH),,]"-

によってあらわされ

ここで、 L'ーHはH'、アンモニウムまたは、ヒドロカルビルまたは置後 ヒドロカルビル甚で3筒までの水常原子が置換された。任意に三度換された 置換アンモニウム基、 ホスフォニウム、またはヒドロカルビルまたは置換ヒ ドロカルビル基で3筒までの水常原子が置換された置換ホスフォニウム基等 であり、 B、 C およびHはそれぞれ研索、映楽、および水楽で; a x は0か1 で; c x は2か1であり; a x + c x = 2; b x は10から12までの整数である、 環水項3万至6のいずれかに記載の方法。

- 8. 前記第二化合物がビス [トリ (n-ブチル) アンモニウム] ドデカボレート およびトリ (n-ブチル) アンモニウム1-カルパウンデカまたは1-カルパドデ カボレートから成る群から置択され、前配第一化合物がビス (ペンタメチル シクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、 (ペンタメチルシクロペ ンタジエニル) (シクロペンタジエニル) ジルコニウム ジメチル、および 「1.3-ビス (トリメチルシリル) シクロペンタジエニル」 ジルコニウム ジ メチルから成る群から選択される精束項でに記載の方法。
- 9。前記第二化合物が次の一般式によってあらわされ:

[L'-H][(CH), (BH), H.,]...

ここで、L'ー別は日'、アンモニウムまたは、3 菌までの水素がヒドロカルビルまたは便換ヒドロカルビル基によって関換された、任意に三置換された屋換アンモニウム基、ホスフォニウムまたは3 簡までの水素がヒドロカルビルまたは屋換とドロカルビル基によって屋換された屋換ホスフォニウム基等であり:B、C、日はそれぞれ棚業、炭素および水素で:a y は0から2までの整数:b y は0から3までの整数;c y は0から3までの整数;a y + b y + c y = 4; モしてm y は9から18までの整数である、請求項3から請求項6までのいずれかに記載の方法。

- 13. 2万至約18の炭素原子を含むα-オレフィン、ジオレフィンおよび/または アセチレン性不動和化合物を、単独で、または1種類またはそれ以上のモノ マーと組み合わせて、複合する方法であって、
 - (a) 約-100でから約300でまでの範囲内の温度、約0から約45.000psig(0~28471 kg/cd)の範囲内の圧力で、オレフィン、ジオレフィンおよび/またはアセチレン性不飽和モノマーを、単独で、または1種類かそれ以上のモノマーと組み合わせて適当な担体、将謀または希釈剤中で、請求項3乃至12のいずれかに配載の方法によって、あらかじめ製造した、或いはその場で製剤した触媒と、置合の前接触させ、
 - (b) 股階(a)の接触を少くとも上記オレフィンの一部が貫合するのに十分な時間翻続し;
 - (c) ポリマー生成物を回収する

段階からなる重合方法。

- 14. 駒水項3乃至堺水項12のいずれかに記載の方法により製造される触媒。
- 15. 請求項13の方法にしたがって製造されるポリオレフィン。
- 16. 第IV-B族金属の加水分解可能なビス (シクロベンタジエニル)金属化合物または触媒的に活性なその分解生成物から誘導されたカチオン、および複数の研索原子を含み置合中にオレフィン、ジオレフィン、および/またはアセチレン性不飽和モノマーで重換されるのに十分なほど不安定である安定化アニオンを含むイオン性食合胎媒。」